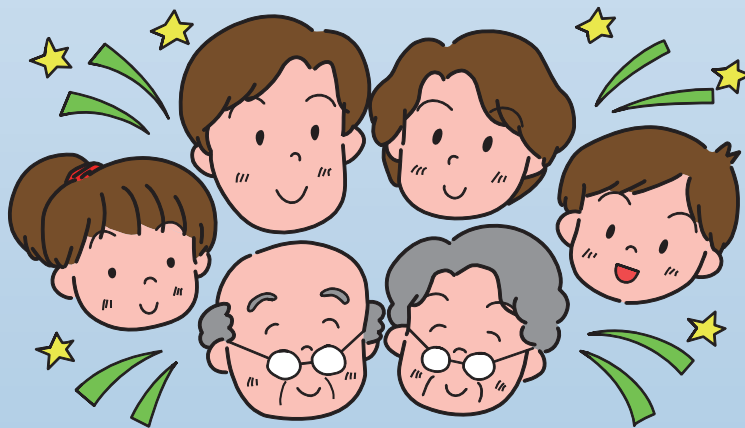


白岡市

第2期地域福祉活動計画



～みんなで支えあい、笑顔と温もりがある福祉のまち しらか～

令和3年3月

 社会福祉法人 白岡市社会福祉協議会

地域共生社会の実現を願って

皆様には、日ごろより、白岡市社会福祉協議会の運営にご理解、ご協力を賜っておりますこと心から感謝申し上げます。

さて、近年は、少子・高齢化や核家族化、社会構造やライフスタイルの変化により、単身世帯の増加や引きこもり、社会的孤立、虐待、生活困窮者など、様々な福祉課題が、それらに起因して複雑化・複合化するケースが増加しており、既存の福祉サービスや単体の機関の支援だけでは、解決が難しくなっています。

また、地域では、人間関係が希薄となり、住民同士の助け合いや支えあいなどの相互扶助が低下しつつあります。それらを背景に、国では、地域住民や地域の多様な主体が地域の福祉課題を「我が事」としてとらえ、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながる「地域共生社会」の実現を提唱しています。

白岡市社会福祉協議会では、この度、第1期計画に引き続き「みんなで支えあい、笑顔と温もりがある福祉のまち しらおか」を基本理念とする「第2期地域福祉活動計画」を策定いたしました。本計画では、行政が策定する第2期地域福祉計画と連携を図り、「基本目標」と「活動目標」の分野を共有し、地域福祉を推進するうえで、住民の皆様にわかりやすい計画となるよう策定を目指してきました。

今後も白岡市社会福祉協議会では、地域福祉を推進する中核的な存在として、住民の皆さまや地域福祉に関わるあらゆる団体と連携を図りながら本計画を礎として「地域共生社会」の実現に向け活動してまいりたいと考えております。皆さまには、さらなるご協力、ご参加をお願い申し上げます。



令和3年3月
社会福祉法人
白岡市社会福祉協議会
会長 秋葉 清一郎

第2期計画の策定にあたって

この計画は市民の皆様と福祉に関連する多様な機関がともに参加し、協力しあいながら地域福祉を推進するための行動計画です。

第2期地域福祉活動計画の策定にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言が発動され、ボランティア活動や地域活動が自粛せざるを得ないなか、策定委員会においてもスケジュールの変更や会議の書面開催と影響が大いにあり、委員の皆さまや策定事務局におかれましても、大変心苦しい状況であったことと思います。このような状況の中でも、この計画が策定できたことを前向きにとらえ、新型コロナウイルス感染症によって変わった新しい生活様式のなかでも、人と人とのつながりを絶やさずに今できること、この状況が明けた時にできることを考え、多くの住民や関係者の参画と協働により、白岡市の地域福祉が現在よりもさらに発展することを切に願っております。

結びに、この計画策定にあたりご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。



令和3年3月
白岡市地域福祉活動計画
策定委員会
委員長 浅野 悦子

目 次

第1章 計画策定にあたって

1. 地域福祉とは	1
(1)地域福祉の概念	
(2)地域福祉と社会福祉協議会	
(3)地域共生社会とその実現に向けて	
2. 計画策定の背景	3
3. 計画の性格と位置づけ	4
(1)計画の性格	
(2)計画の位置づけ	
4. 計画の期間	5
5. 計画の策定体制	5

第2章 白岡市の現状と地域における福祉課題

1. 白岡市の人口構成	6
2. 白岡市の人口推計各種	7
3. 生活困窮支援の推移	8
4. 白岡市社会福祉協議会が行っている取り組みの現状	9
5. 各種調査から見てきた現状と課題	12
6. 第2期計画の課題と解決に向けた取り組みの方向性	29

第3章 本計画で目指す方向性と展望

1. 計画の体系	30
2. 基本理念	31
3. 基本目標	31

第4章 具体的な取り組み

1. 活動目標	3 2
2. 活動計画	3 5

第5章 計画の推進に向けて

1. 計画の推進体制	5 6
(1)計画の周知	
(2)計画の推進	
2. 計画の進行管理	5 6

資料編

- 用語解説
- 白岡市地域福祉活動計画の策定経過



第1章 計画策定にあたって

1. 地域福祉とは

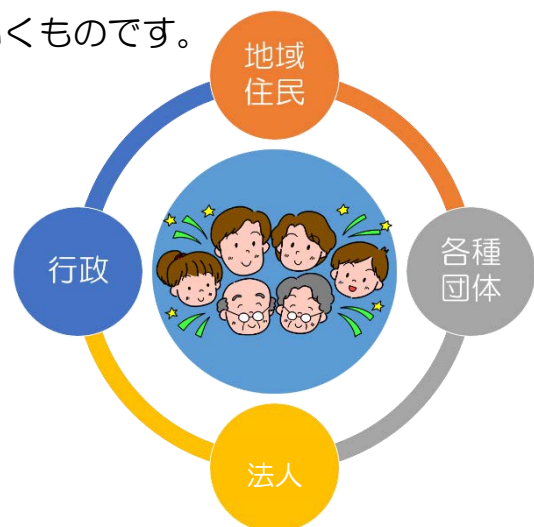
(1) 地域福祉の概念

○地域福祉とは、地域において人々が安心して暮らせるよう、住民・団体・企業・行政がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決等に取り組む考え方です。

○具体的には、法律等の制度に基づき提供される公的なサービスや住民・ボランティア団体などによる支えあいの取り組みなどを相互に生かしながら、住民の福祉ニーズに応えていくものです。

(資料 第5期埼玉県地域福祉支援計画

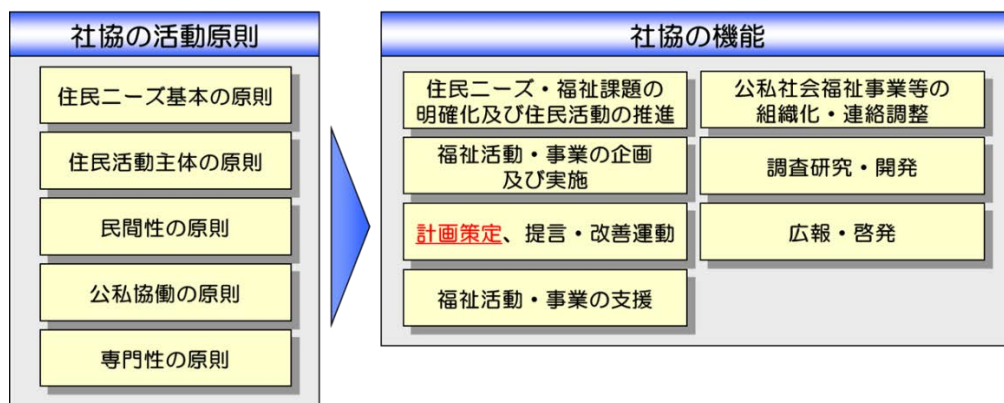
計画期間：2018年度から2020年度)



(2) 地域福祉と社会福祉協議会

○社会福祉協議会（以下「社協」という。）は、社会福祉法に基づき、国、都道府県、政令指定都市、市区町村単位に設置されている社会福祉法人で、非営利の民間組織です。

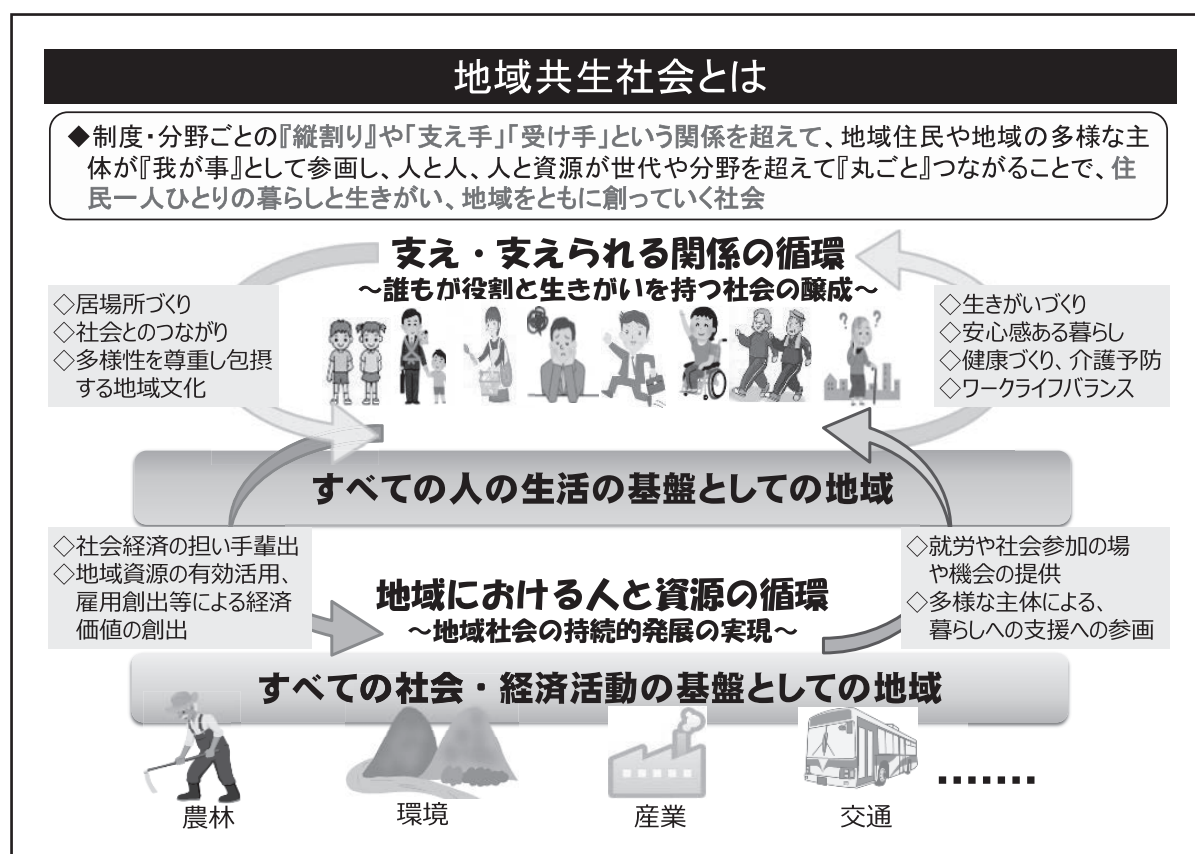
○社協は、地域福祉を推進する中核的な団体として、地域に暮らす住民のほかボランティア団体・個人、民生委員・児童委員、社会福祉施設などの社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係者との協働により地域生活課題の解決に取り組み、誰もが支え合いながら安心して暮らすことができる「ともに生きる豊かな地域社会」づくりを目指し活動しています。



(3) 地域共生社会とその実現に向けて

○地域共生社会とは、制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のことです。

○社会構造の変化や人々の暮らしの変化をふまえ、様々な福祉課題を抱えながらも住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、すべての人々が役割と生きがいを持ち、自分らしく活躍し、支え合いながら安心して暮らせる地域をともに創っていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けた体制整備などが必要です。



資料：厚生労働省「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」

2. 計画策定の背景

なぜ今、「地域共生社会」の実現が必要なのか

～複雑化・複合化した福祉課題～

- 近年、少子高齢化や核家族化などの進行による社会構造の変化に伴い、地域や家族、職場といった様々な生活の場において、人間関係や地縁的なつながりが希薄化する傾向にあり、以前に比べ、地域コミュニティと、地域が本来持っている相互扶助機能が低下しつつあります。
- 社会構造や生活スタイルの変化に伴い、単身世帯の増加や貧困層の拡大、児童・高齢者・障がいのある人への虐待、ひきこもりや孤独死、ドメスティック・バイオレンス、青少年の非行犯罪など、新たな社会問題が生じ、深刻化しています。

また、高齢の親とひきこもりや障がいのある50代の子が同居することによる問題や晩婚化による介護と育児を同時に直面する世帯の課題、いわゆる8050問題やダブルケアに代表される複雑化・複合化した課題が浮き彫りになりつつあります。



～これらの問題を解決するために～

- 介護保険制度、障がい者支援制度、子ども・子育て支援制度などの単一の制度のみでは、複雑化・複合化した課題の解決が難しく、分野ごとの「縦割り」や「支え手」と「受け手」といった関係性を超え、つながることで複雑化・複合化した福祉課題に対応することが必要となってきました。
- 地域の多様な主体が行う自主的な福祉活動と行政が提供する公的な福祉サービスとの連携によって、課題の解決を図る協働のしくみづくりが必要となってきました。
- 身近な地域での支えあい・たすけあいの大切さが再認識され、日頃から助け合える仕組みづくりが必要となってきました。

3. 計画の性格と位置づけ

(1) 計画の性格

白岡市地域福祉活動計画（以下、「本計画」という。）は、地域住民とボランティア団体・個人、民生委員・児童委員、社会福祉施設などの社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の参加・協力により地域福祉を推進するための行動計画で、住民一人ひとりが互いに支えあい、たすけあいながら安心した生活ができる地域社会を目指すものです。

(2) 計画の位置づけ

民間の計画である「地域福祉活動計画」と行政の計画である「地域福祉計画」は、車の両輪のように連携を図ることが必要です。

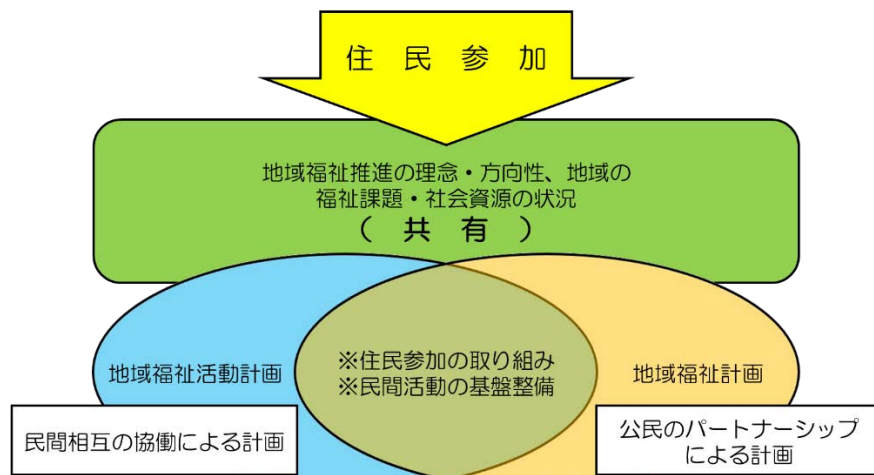
① 地域福祉活動計画

- ・市区町村社協が中心となり策定する、住民等による福祉活動及び地域福祉計画の実現を支援するための活動を内容とした計画です。

② 地域福祉計画

- ・社会福祉法の規定に基づき、地域における高齢者の福祉、障がい者の福祉、児童福祉その他の福祉の各分野における共通的な事項を記載する、市の福祉分野の上位計画です。

<地域福祉活動計画と地域福祉計画の関係>

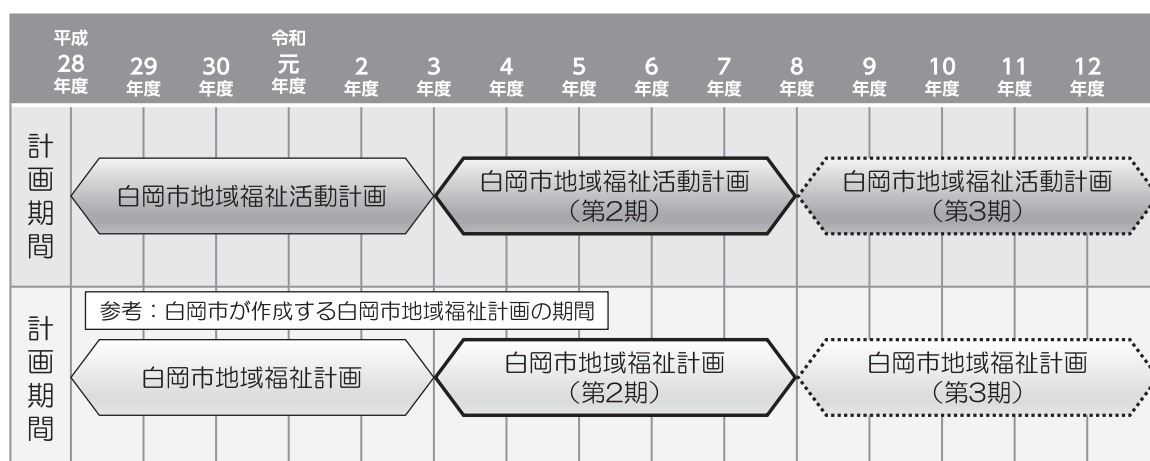


4. 計画の期間

○令和3年度から7年度までの5年間とします。

○計画期間中に、社会環境や国・県の方向性に大きな変化が生じた場合などには、白岡市地域福祉計画との整合性を図りながら計画を見直します。

◆計画の期間



5. 計画の策定体制

①白岡市地域福祉活動計画策定委員会（令和2年10月設置）

○本計画の策定にあたり、市民、地域活動実践者、地域福祉事業従事者、地域団体関係者、医療・保健関係者、行政・教育関係者などで構成する「白岡市地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、それぞれのお立場から検討いただきました。

②各種調査

市民の皆様のお考えをできるだけ反映して計画を策定しました。

○支部社協福祉委員アンケート調査

○白岡市地域福祉計画における各種調査結果の共有

○計画案について広く市民の意見を募集するためのパブリックコメント実施

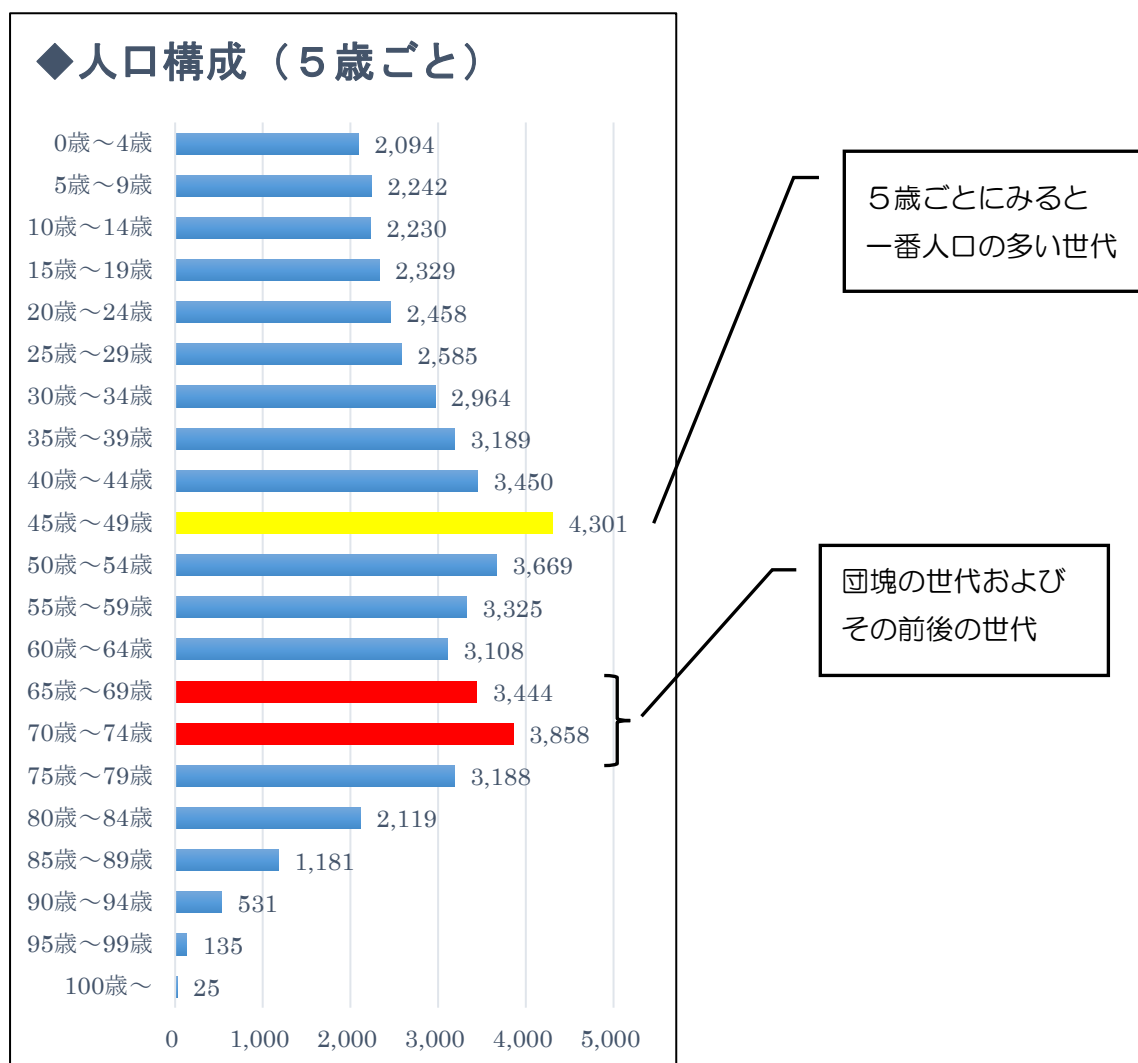
③その他

○白岡市社会福祉協議会内部の計画策定推進検討会での検討

○白岡市地域福祉計画担当課との協議・検討

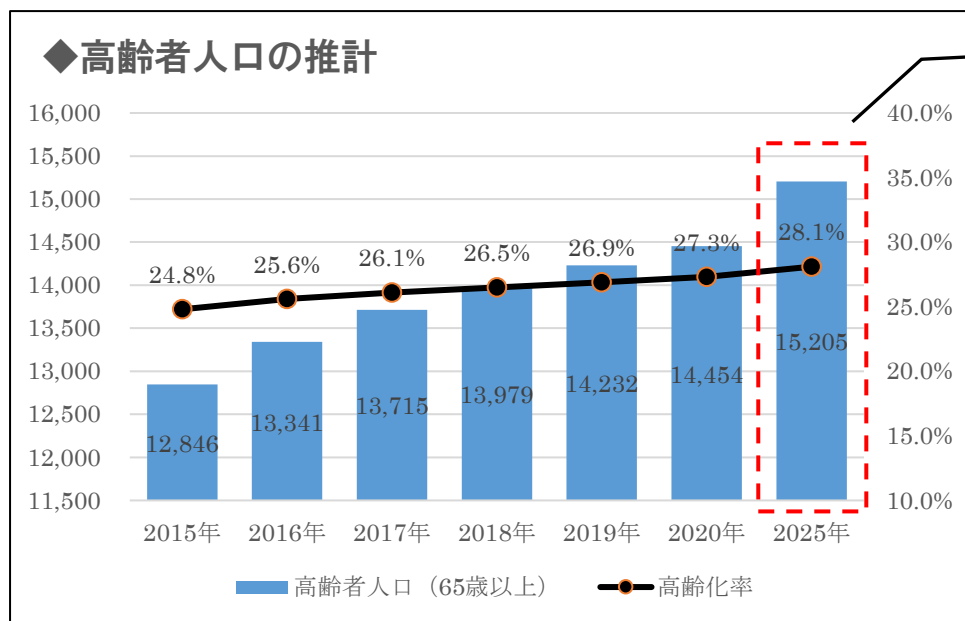
第2章 白岡市の地域福祉の取り組みの現状と課題

1. 白岡市の人口構成

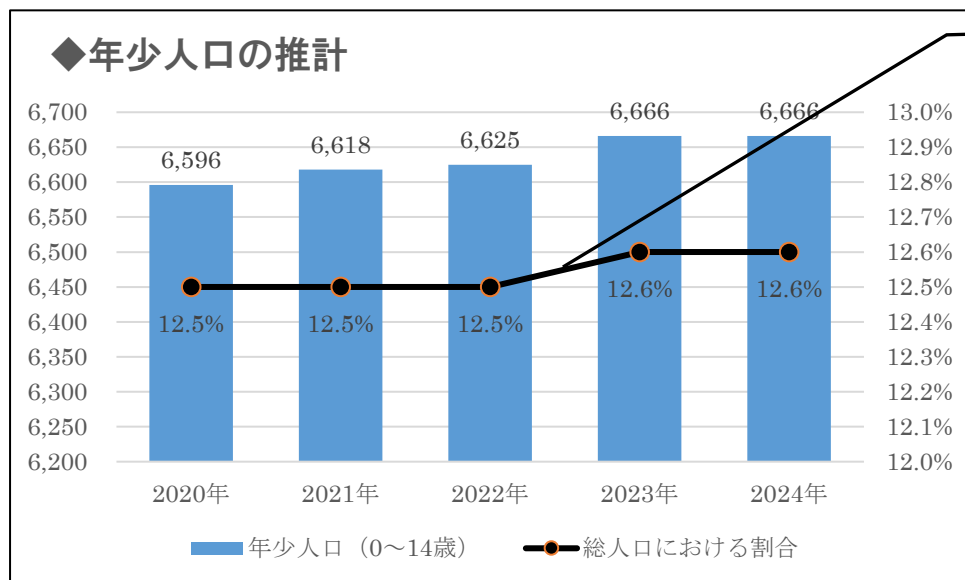


資料：住民基本台帳（外国人含む）令和2年10月1日現在

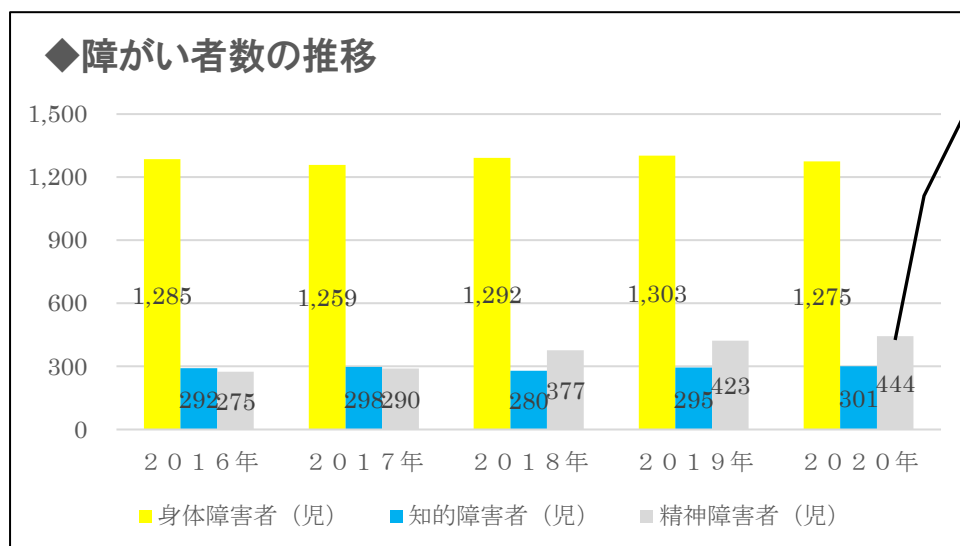
2. 白岡市の人口推計各種



2025年には団塊の世代が、後期高齢者となり、全国的に高齢者人口がピークを向えると言われており、白岡市においても増加していくと想定されています。

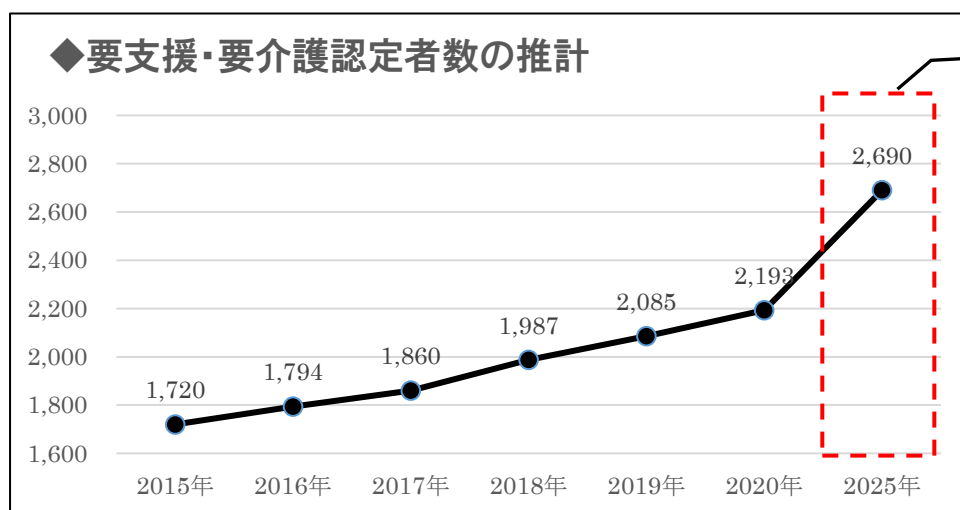


年少人口については、今後、微増で推移すると想定されています。



身体及び知的障がい者数は増減をしながら推移していますが、精神障がい者数は近年、大きく増加傾向にあります。

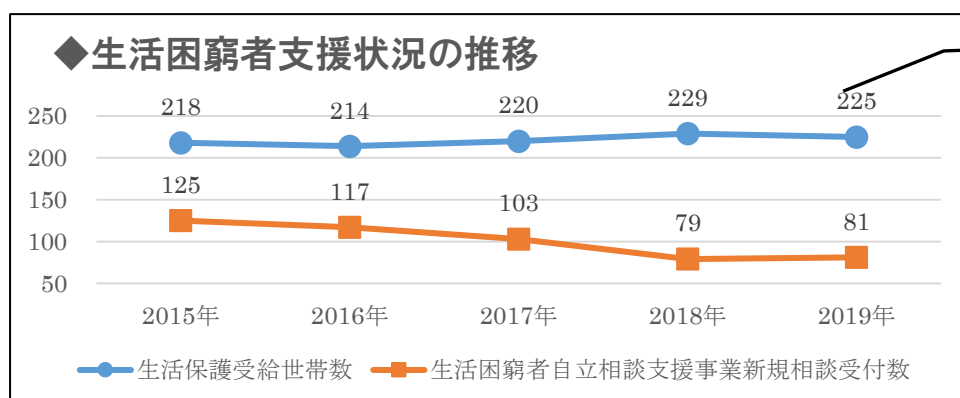
資料：福祉課 身体障害者（児）は身体障害者手帳所持者数、知的障害者（児）は療育手帳所持者数、精神障害者は精神障害者保健福祉手帳所持者数（各年10月1日現在）



介護保険における要支援・要介護認定者数は増加傾向にあり、団塊の世代が後期高齢者となる2025年には2,500人を超えると想定されています。

資料：「白岡市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画」（各年10月1日を基準）

3. 生活困窮支援の推移



生活保護受給世帯数は、ほぼ横ばい。また、社会福祉協議会が市から受託している生活困窮者自立相談支援事業の新規相談者は減少傾向にあります。

資料：福祉課 生活保護受給世帯数（各年10月現在）
社会福祉協議会 生活困窮者自立相談支援事業新規相談受付数（各年度末実績）

4. 白岡市社会福祉協議会が行っている取り組みの現状

■社会福祉協議会支部育成事業

地域福祉活動を推進するための地域拠点として、小学校区を単位に6つの支部を設置しています。各支部では福祉委員（行政区長、民生委員・児童委員、老人クラブ、ボランティア、学校長、PTA 会長など）がそれぞれの地域特性に合わせた様々な地域福祉活動を展開しています。



■ふれあい・いきいきサロン事業

集会所や公共施設等、小地域での仲間づくりの場の提供を図り、地域住民による自主的活動の支援を行う。研修会の開催、保険加入等の活動支援、実施団体に対する助成金交付などを行っています。



■福祉教育事業

市内の小・中学校・高等学校全校を福祉協力校に指定し、助成金支援、福祉体験授業などの支援行っています。

■防災対策事業

災害時に住民同士が互いに助け合い、復興を勧めることができるよう理解を深めるためのイベントや訓練を実施しています。

■ボランティアセンターの運営

ボランティア活動の拠点として相談やコーディネート、ボランティア保険の加入手続きなどを行っています。

■ボランティアの育成

夏休みボランティア体験や各種講座の開催、既存のボランティア活動者へのフォローアップなどを行っています。

■配食サービス事業

調理・配食ボランティアの協力により、ひとり暮らしの高齢者などに配食を通じた見守り・安否確認活動を行っています。

■朗読テープ配布事業

ボランティア団体の協力により視覚障がい者等に対し、市広報紙や選挙公報等の音訳物を配付し、情報提供を行っています。

■点訳サービス事業

ボランティア団体の協力により視覚障がい者に対し、点訳物を作成し、情報提供を行っています。

■福祉活動助成事業

市内に活動拠点をもつ社会福祉団体、福祉活動者の社会福祉事業の新たな試みに対し、助成金の交付や相談支援を行っています。

■備品貸出事業

お祭りや子ども会など地域のイベントなどの活動の実施にあたり、テントや音響機器などの無料貸し出しを行っています。

■福祉機器貸与事業（療養ベッド、車いす）

在宅で寝たきりの状態の方や身体に障がいの有する方などに福祉機器の貸与を行っています。

■障がい者移動支援事業

車いすを必要とする方などの社会参加の促進や外出支援を図るため、車いすのまま乗車が可能な福祉車両の貸し出しサービスを行っています。

■しらおか地域生活支えあい事業

住民相互の助け合いを目指し、元気な高齢者などが支援を必要としている高齢者などの日常生活上の支援を行っています。

■彩の国あんしんセーフティネット事業

福祉制度の狭間の問題や、生活困窮世帯への相談支援を目的とした社会福祉法人の社会貢献活動の円滑な実施のための協力を行っています。

■法外緊急援護事業

住所不定者（ホームレス）などへの交通費、食事の支給、火災被災世帯に対する見舞金の支給などを行っています。

■福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートねっと） ※県社協委託

判断能力が不十分な高齢者、知的・精神障がい者に対し、福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かりなどを行っています。

■生活困窮者自立相談支援事業 ※市委託

生活困窮状態からの早期自立を促すために、就労その他の自立に関する相談支援を行っています。

■生活福祉資金貸付事業 ※県社協委託

失業者や障がい者等の低所得者等を対象に、生活の安定と自立助長を目的とする貸付事業を行っています。

■福祉資金貸付事業

低所得世帯に対して、白岡市社協独自で資金の貸付を行うことにより、生活の安定と自立の助長を目的とする貸付事業を行っています。



5. 各種調査から見てきた現状と課題

資料1 福祉委員アンケート調査結果（抜粋）

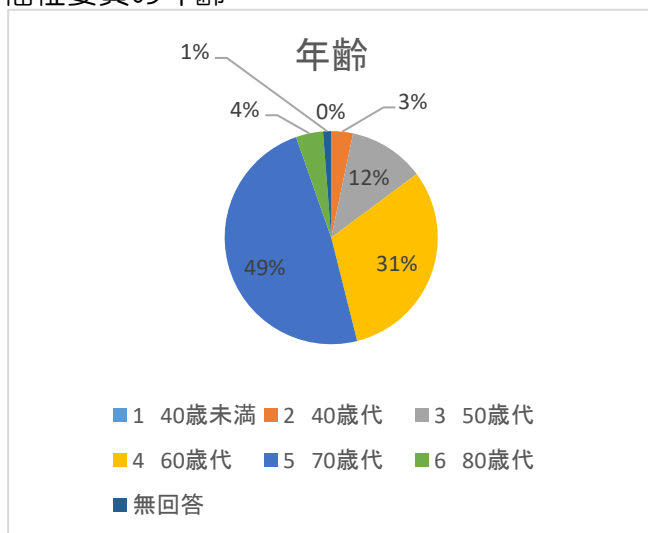
配布数：379 人（6支部社協の福祉委員）

回答数：243 人

出 典：白岡市社会福祉協議会

令和元年度支部社協活動に対するアンケート調査より

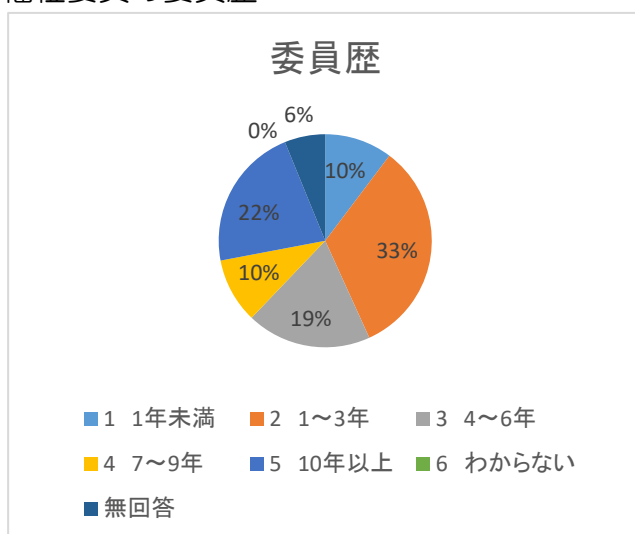
・福祉委員の年齢



年齢	
1 40歳未満	0%
2 40歳代	3%
3 50歳代	12%
4 60歳代	31%
5 70歳代	49%
6 80歳代	4%
無回答	1%

※70代が49% 60代が31%、
全体の80%を占めている。

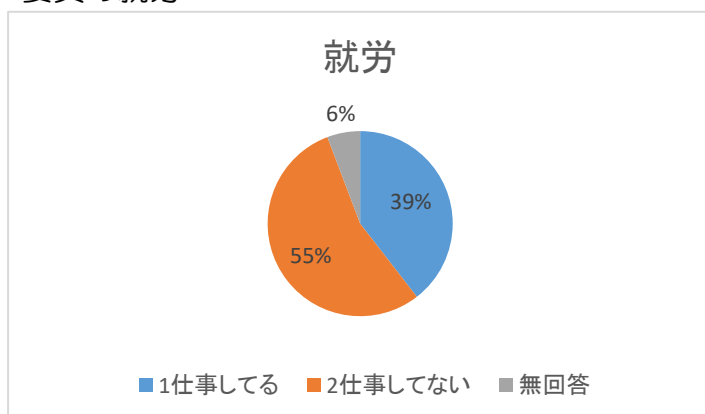
・福祉委員の委員歴



委員歴	
1 1年未満	10%
2 1～3年	33%
3 4～6年	19%
4 7～9年	10%
5 10年以上	22%
6 わからない	0%
無回答	6%

※1～3年が33%、
10年以上が22% と次いで多い。

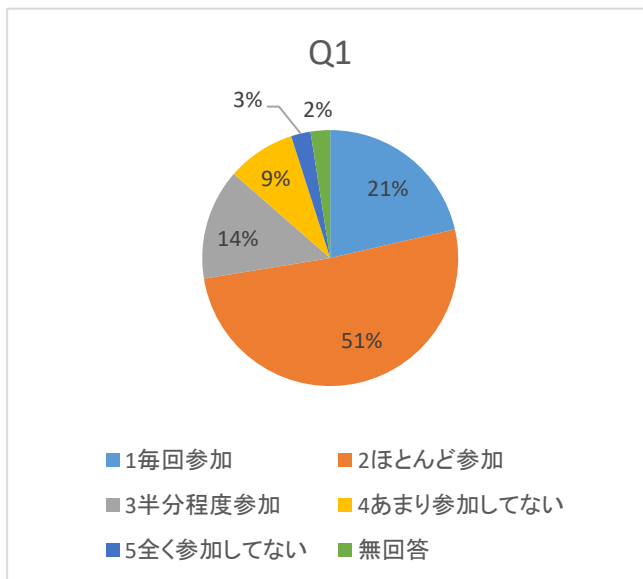
・委員の就労



就労	
1 仕事してる	39%
2 仕事してない	55%
無回答	6%

※39%の方が仕事をしながら活動
している。

・参加率

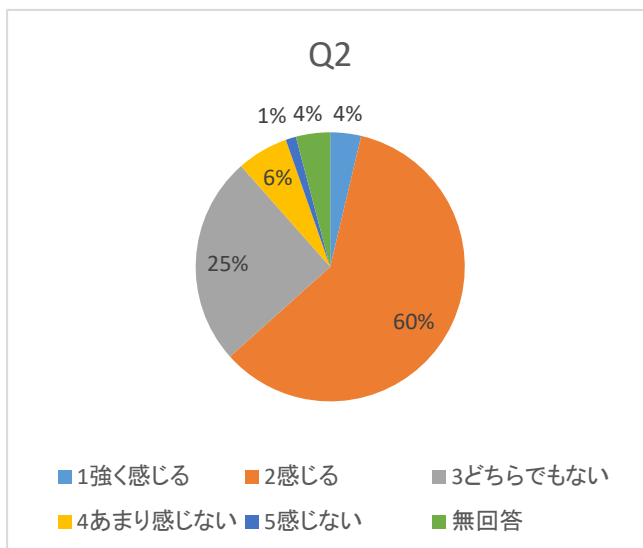


Q1支部活動への参加頻度を教えてください。

1 毎回参加	21%
2 ほとんど参加	51%
3 半分程度参加	14%
4 あまり参加してない	9%
5 全く参加してない	2%
無回答	2%

※「毎回参加」、「ほとんど参加」を併せて 70%程度が活動に参加している。

・支部活動にやりがいを感じるか

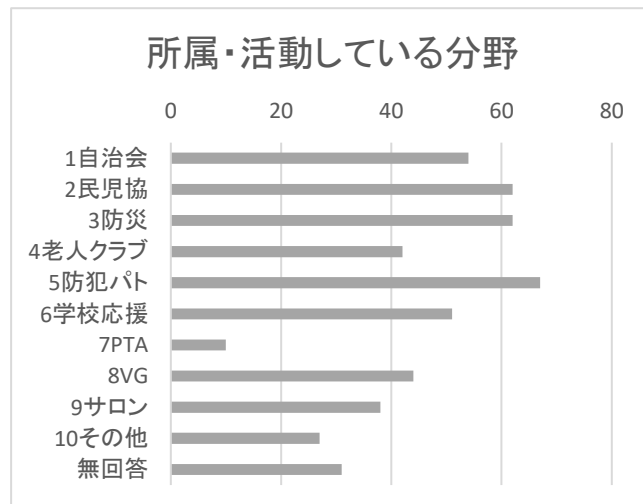


Q2支部活動について「やりがい」を感じますか。

1 強く感じる	4%
2 感じる	60%
3 どちらでもない	25%
4 あまり感じない	6%
5 感じない	1%
無回答	4%

※やりがいを「強く感じる」と回答した方は4%と少ないものの、60%の方が「感じる」と回答している。

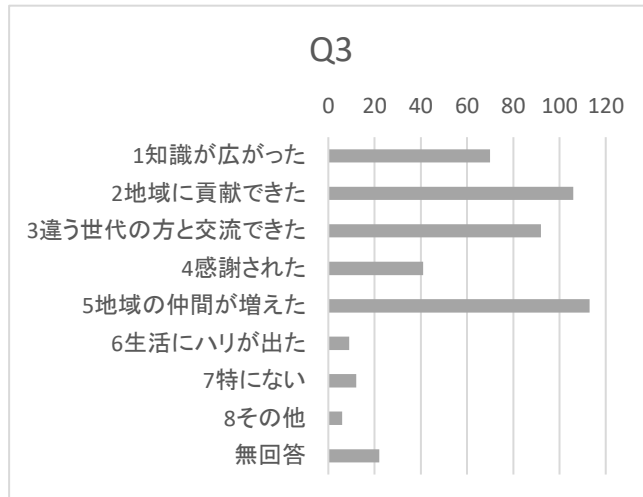
・所属分野（複数回答）



※他の分野での活動として上位には、「防犯パトロール」や「自主防災」、「民生・児童委員協議会」に所属している方が多い。

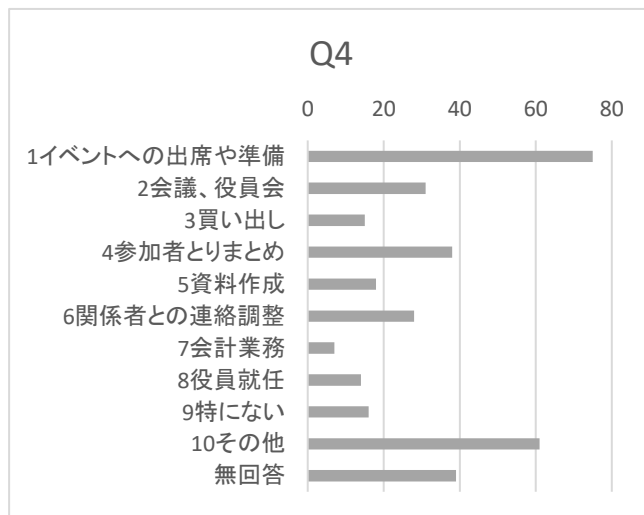
※「自治会」や「学校応援団」なども含め、地域と密接した活動に参加されている方が多い。

・支部活動を通じてよかったことは何ですか（複数回答）



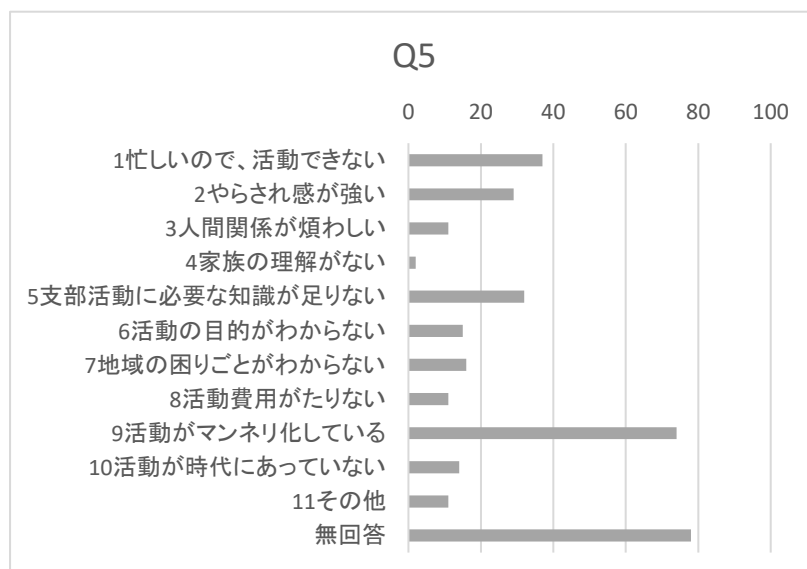
※一番多かった回答は、「地域の仲間が増えた」こと。次いで「地域貢献」や「多世代交流」を挙げた方が多かった。

・支部活動について大変なことは何ですか？（複数回答）



※一番多かった回答は、「イベントへの出席や準備」。次いで「参加者のとりまとめ」、「会議、役員等」を挙げた方も多かった。

・課題に感じていることは何ですか？（複数回答）



※「活動のマンネリ化」が圧倒的に多かった。次いで「多忙」や「知識不足」を課題に挙げる方が多かった。

地域の困りごと、課題等について（抜粋）

【高齢化に関する課題】

- ・ 空き家問題・交通手段が無い・通院の付き添い・買い物支援・身寄りのいない
独居高齢者（緊急連絡先が無い、身元引受人がいない）

【防災に関する課題】

- ・ 要援護者の把握・防災訓練の参加者が少ない・無関心

【地域のつながりに関する課題】

- ・ ひきこもり・転居してきた新住民のことを知らない・ご近所関係の希薄化・ご
近所トラブル（マナー問題）

【参加者に関する課題】

- ・ 参加者の固定化・マンネリ化による参加者の減少・参加してほしい人が参加し
ない・移動が困難な方への配慮

【担い手に関する課題】

- ・ 活動者が少ない・他の活動との兼務が多い・若い世代の参加が少ない・世代交
代ができない・当て職ではなくやる気のある人の参加

【その他の課題】

- ・ 案内回覧を見ない 集会所が和室で椅子が無い

資料2 市民アンケート調査結果（抜粋）

配布数：2,000 人（18 歳以上の市民を無作為抽出）

回答数： 959 人

出 典：白岡市

「白岡市地域福祉についてのアンケート調査報告書」より

（1）近所でのあいさつ

自分から近所の人にあいさつをしていますか。[どちらかに○]

自分からあいさつを「している」が87.8%

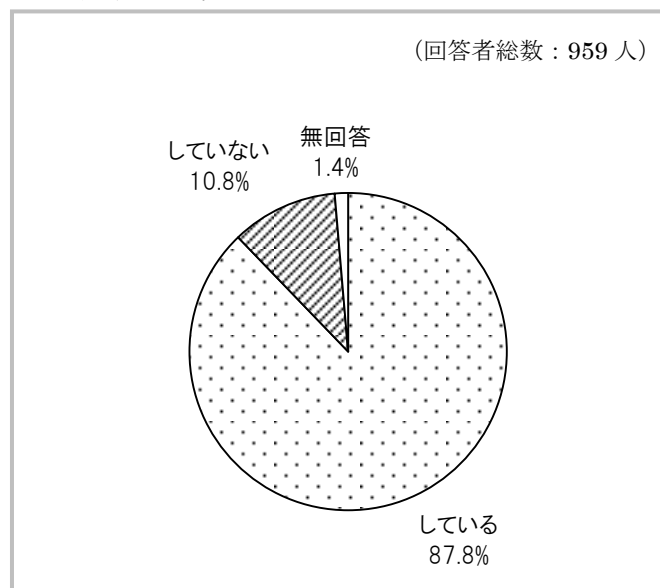
自分から近所の人にあいさつをしているかについては、「している」が87.8%、「していない」が10.8%となっています。

表 近所でのあいさつ

単位：人（%）

区 分	全 体
回答者総数（人）	959
している	842 (87.8)
していない	104 (10.8)
無回答	13 (1.4)

図 近所でのあいさつ



前回の調査と比較すると、あいさつを「している」という割合は、平成26年度調査の91.6%から87.8%に減少しました。

(2) 近所付き合い

ご近所とお付き合いはいかがですか。[1つに○]

「あいさつする程度」が43.2%で最も多い

ご近所とお付き合いについては、「あいさつする程度」が43.2%で最も多くなっています。また、「困りごとを話し合えるような付き合い」は10.7%、「立ち話をする程度」は34.6%で、これら2項目を合わせると、話をするなどの何らかのお付き合いをしている割合は45.3%となっています。

一方、「ほとんど付き合いがない」は10.2%となっています。

図 近所付き合い

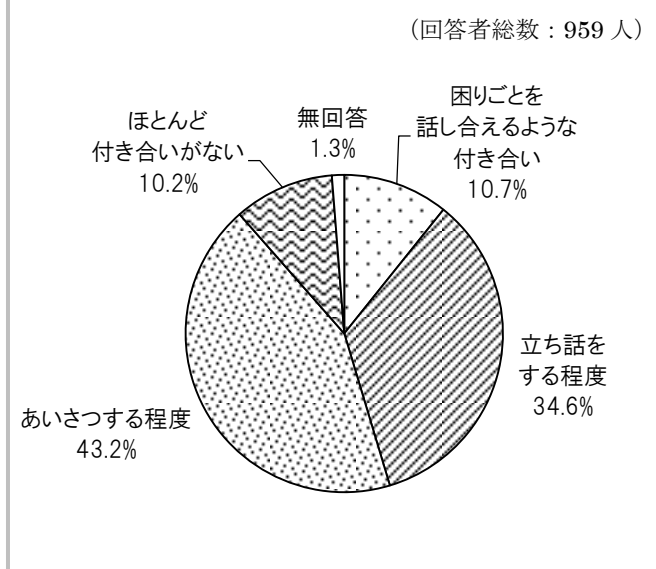


表 近所付き合い

単位：人 (%)

区 分	全 体
回答者総数 (人)	959
困りごとを話し合えるような付き合い	103 (10.7)
立ち話をする程度	332 (34.6)
あいさつする程度	414 (43.2)
ほとんど付き合いがない	98 (10.2)
無回答	12 (1.3)

前回の調査と比較すると、「ほとんど付き合いがない」は平成26年度調査の6.0%から10.2%に増加し、「困りごとなどを話し合えるような付き合い」は同じく16.2%から10.7%に減少しました。

(3) 身近な地域での問題点

身近な地域で気になること、問題と感ずることがあります。〔あてはまるものすべてに○〕

「交通など移動手段の問題」が36.9%で最も多い

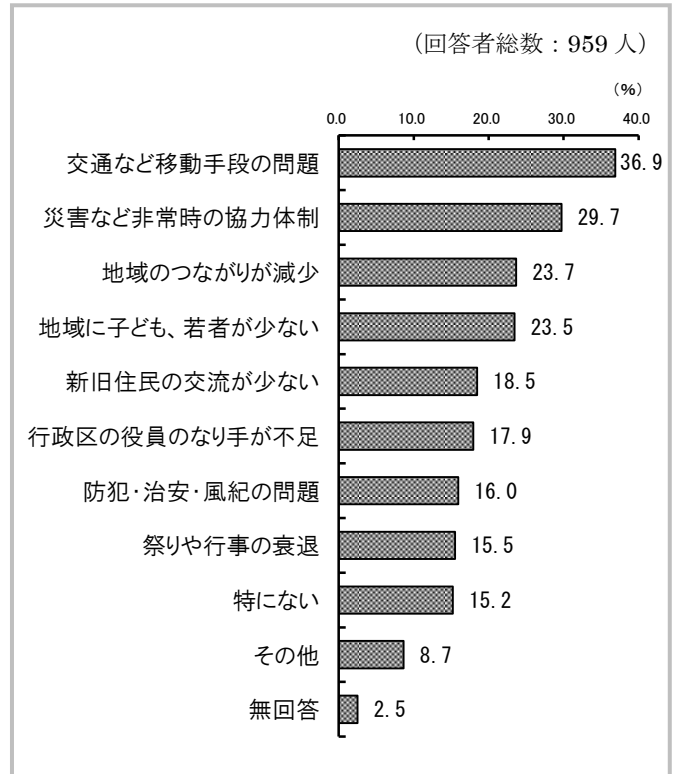
身近な地域で気になること、問題と感ずることがあるかについては、「交通など移動手段の問題」が36.9%で最も多く、続いて「災害など非常時の協力体制」が29.7%、「地域のつながりが減少」が23.7%となっています。

一方、「特にない」は15.2%となっています。

表 身近な地域での問題点 単位：人（%）

区 分	全 体
回答者総数（人）	959
交通など移動手段の問題	354 (36.9)
災害など非常時の協力体制	285 (29.7)
地域のつながりが減少	227 (23.7)
地域に子ども、若者が少ない	225 (23.5)
新旧住民の交流が少ない	177 (18.5)
行政区の役員のなり手が不足	172 (17.9)
防犯・治安・風紀の問題	153 (16.0)
祭りや行事の衰退	149 (15.5)
特にない	146 (15.2)
その他	83 (8.7)
無回答	24 (2.5)

図 身近な地域での問題点



前回の調査と比較すると、「交通など移動手段の問題」は平成 26 年度調査の 25.2%から 36.9%に、「災害など非常時の協力体制」も 26.0%から 29.7%へと増加しました。また、「行政区の役員のなり手が不足」も平成 26 年度調査の 13.5%から 17.9%に増加しています。

(4) 自分が手助けできること

ご近所に介護や病気、子育てなどで困っているご家庭があったら、あなたが手助けできそうなことはありますか。[あてはまるものすべてに○]

「安否確認の声かけ」が49.7%で最も多い

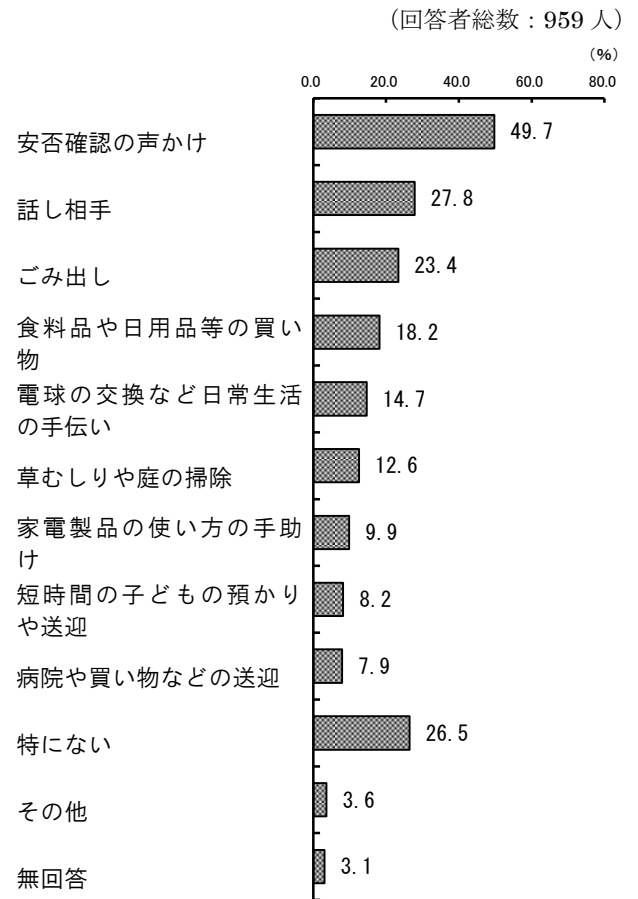
近所に介護や病気、子育てなどで困っている家庭があったら、手助けできそうなことがあるかについては、「安否確認の声かけ」が49.7%で最も多く、続いて「話し相手」が27.8%、「ごみ出し」が23.4%となっています。

一方、「特にない」は、26.5%となっています。

表 自分が手助けできること 単位：人（%）

区 分	全 体
回答者総数（人）	959
安否確認の声かけ	477 (49.7)
話し相手	267 (27.8)
ごみ出し	224 (23.4)
食料品や日用品等の買い物	175 (18.2)
電球の交換など日常生活の手伝い	141 (14.7)
草むしりや庭の掃除	121 (12.6)
家電製品の使い方の手助け	95 (9.9)
短時間の子どもの預かりや送迎	79 (8.2)
病院や買い物などの送迎	76 (7.9)
特にない	254 (26.5)
その他	35 (3.6)
無回答	30 (3.1)

図 自分が手助けできること



（５）ボランティア活動等の参加状況

地域や行政区の手伝い、ボランティア活動などに参加していますか。〔１つに○〕

参加は約４割

地域や行政区の手伝い、ボランティア活動などに参加しているのかについては、「よく参加している」が２.６%、「参加している」が８.０%、「参加したことがある」が３０.３%で、これらを合わせると、参加の割合は４０.９%で約４割となっています。

一方、「参加したことがない」は５７.０%で、参加していない割合は約６割となっています。

図 ボランティア活動等の参加状況

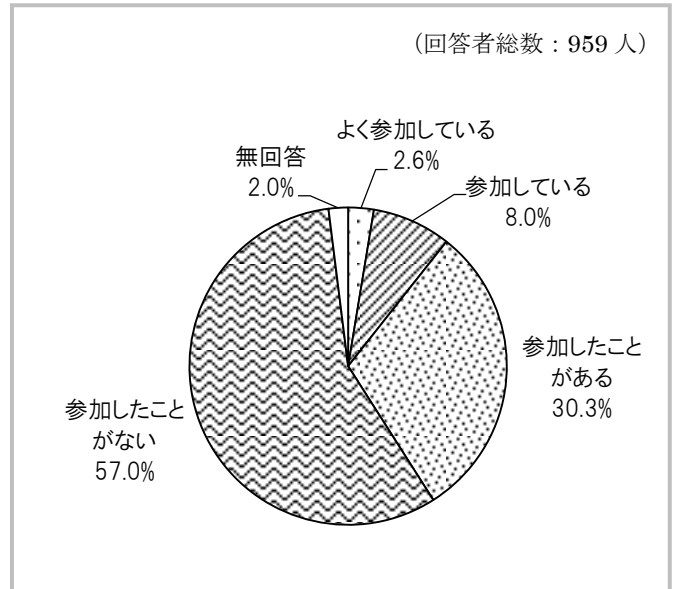


表 ボランティア活動等の参加状況

単位：人 (%)

区 分	全 体
回答者総数 (人)	959
よく参加している	25 (2.6)
参加している	77 (8.0)
参加したことがある	291 (30.3)
参加したことがない	547 (57.0)
無回答	19 (2.0)

前回の調査と比較すると、「よく参加している」と「参加している」の合計は、平成26年度調査の14.8%から10.6%へ減少しました。また、「参加したことがない」は50.3%から57.0%へと増加しました。

（６）自分がボランティア活動できること

あなたができるボランティア活動はありますか。[あてはまるものすべてに○]

「地域の清掃・美化活動」が29.7%で最も多い

自分がボランティア活動できることについては、「地域の清掃・美化活動」が29.7%で最も多く、続いて「災害時の安否確認・避難の手伝い」が20.2%、「高齢者の手助け・見守り」が17.8%となっています。

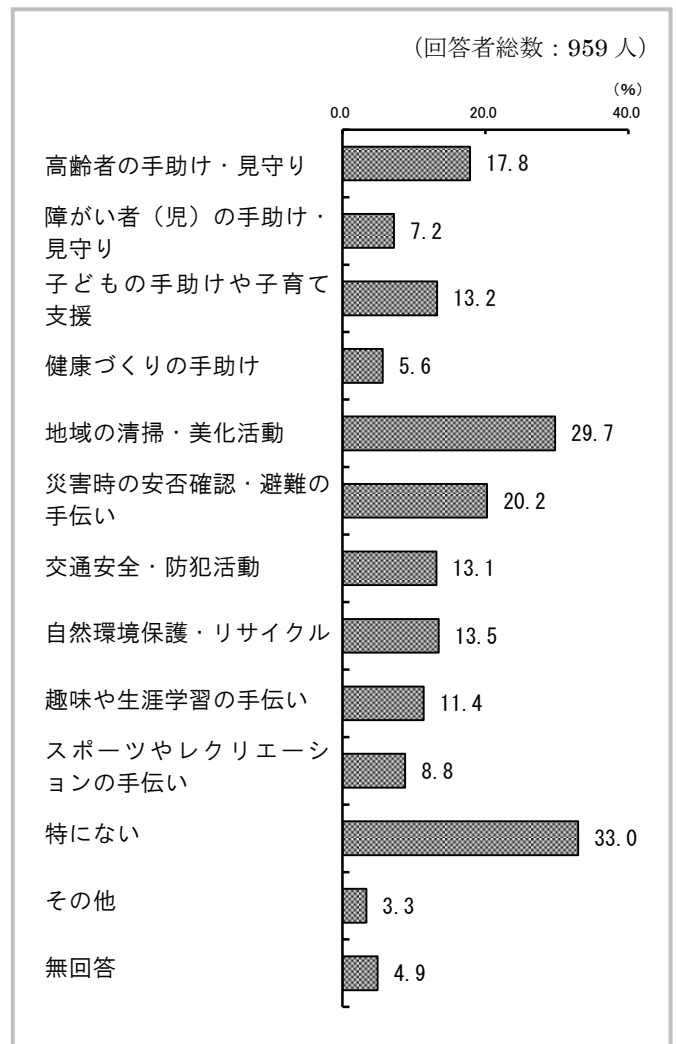
一方、「特にない」は33.0%となっています。

表 自分がボランティア活動できること

単位：人（%）

区 分	全体
回答者総数（人）	959
高齢者の手助け・見守り	171 (17.8)
障がい者（児）の手助け・見守り	69 (7.2)
子どもの手助けや子育て支援	127 (13.2)
健康づくりの手助け	54 (5.6)
地域の清掃・美化活動	285 (29.7)
災害時の安否確認・避難の手伝い	194 (20.2)
交通安全・防犯活動	126 (13.1)
自然環境保護・リサイクル	129 (13.5)
趣味や生涯学習の手伝い	109 (11.4)
スポーツやレクリエーションの手伝い	84 (8.8)
特にない	316 (33.0)
その他	32 (3.3)
無回答	47 (4.9)

図 自分がボランティア活動できること



前回の調査と比較すると、「特にない」が平成26年度調査の26.4%から33.0%に増加しています。

また、「地域の清掃・美化活動」は32.5%から29.7%へ、「災害時の安否確認・避難の手伝い」は23.0%から20.2%へ、「高齢者の手助け・見守り」は19.1%から17.8%へと減少しています。

(7) 民生委員・児童委員の周知状況

地域住民の立場で、福祉の相談やサポートを行う「民生委員・児童委員」を知っていますか。
[1つに○]

「地区の委員の名前や顔は知らないが、

活動は知っている」は24.0%

地区の民生委員・児童委員を知っているかについては、「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」が24.0%、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」が18.2%、「地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない」が12.3%、となっています。また、「地区の委員の名前や顔も、活動も知らない」が22.7%、「民生委員・児童委員を知らない」は20.5%となっています。

図 民生委員・児童委員の周知状況

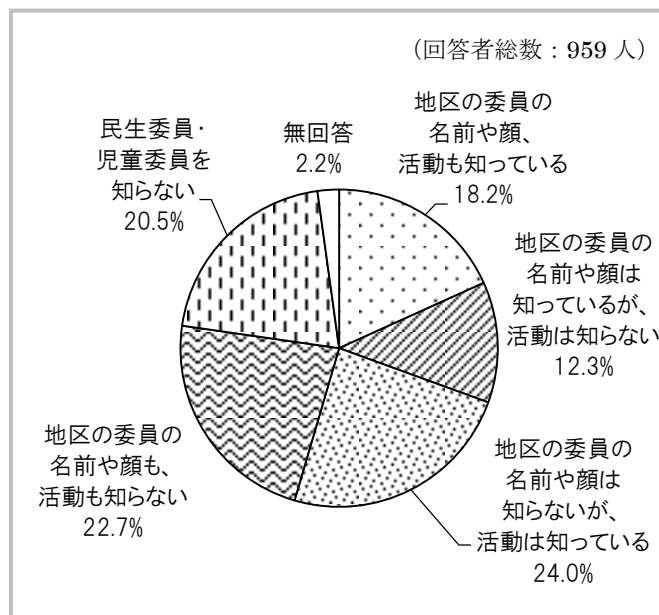


表 民生委員・児童委員の周知状況

単位：人（%）

区 分	全 体
回答者総数（人）	959
地区の委員の名前や顔、活動も知っている	175 (18.2)
地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない	118 (12.3)
地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている	230 (24.0)
地区の委員の名前や顔も、活動も知らない	218 (22.7)
民生委員・児童委員を知らない	197 (20.5)
無回答	21 (2.2)

前回の調査と比較すると、平成26年度調査では、民生委員・児童委員の「名前や顔も活動も知らない」は44.0%であり、今回調査の「地区の委員の名前や顔も、活動も知らない」と「民生委員・児童委員を知らない」の合計43.2%とほぼ同様です。

一方、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」と「地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない」の合計は30.5%であり、平成26年度調査の37.5%から減少しました。

（８）社会福祉協議会の周知状況

住民同士の支え合い、助け合い活動を行っている「白岡市社会福祉協議会」を知っています。

[１つに○]

「活動までは知らないが、

名前は聞いたことがある」が49.8%

「白岡市社会福祉協議会」を知っているかについては、「活動も名前も知っている」が17.3%、「活動までは知らないが、名前は聞いたことがある」が49.8%となっています。

一方、「聞いたことがない」は29.7%となっています。

図 社会福祉協議会の周知状況

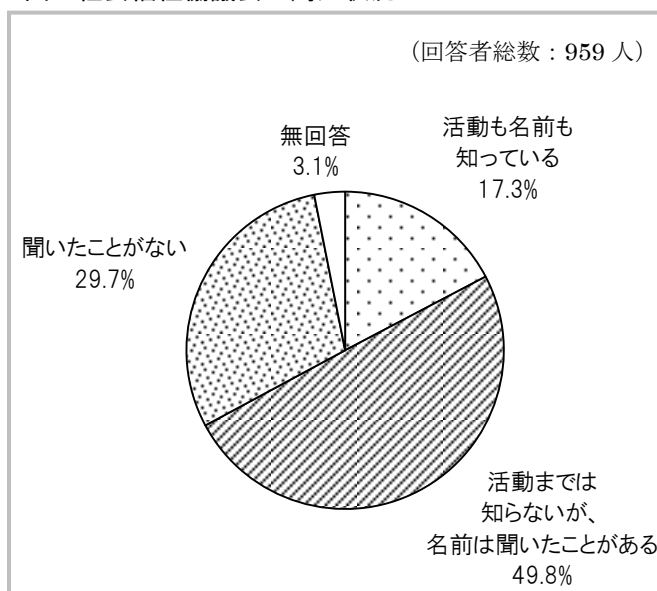


表 社会福祉協議会の周知状況 単位：人 (%)

区 分	全 体
回答者総数 (人)	959
活動も名前も知っている	166 (17.3)
活動までは知らないが、名前は聞いたことがある	478 (49.8)
聞いたことがない	285 (29.7)
無回答	30 (3.1)

前回の調査と比較すると、平成26年度調査の「活動も名前も知っている」が19.5%から17.3%へ、「活動までは知らないが、名前は聞いたことがある」が53.2%から49.8%に減少しました。

資料3 民生委員・児童委員アンケート調査結果（抜粋）

配布数：102人

回収数：77人

出典：白岡市

「白岡市地域福祉についてのアンケート調査報告書」より

（1）地域で問題と感ずること

地域で気になること、問題と感ずることがあります。〔あてはまるものすべてに○〕

「行政区の役員のなり手が不足」が54.5%

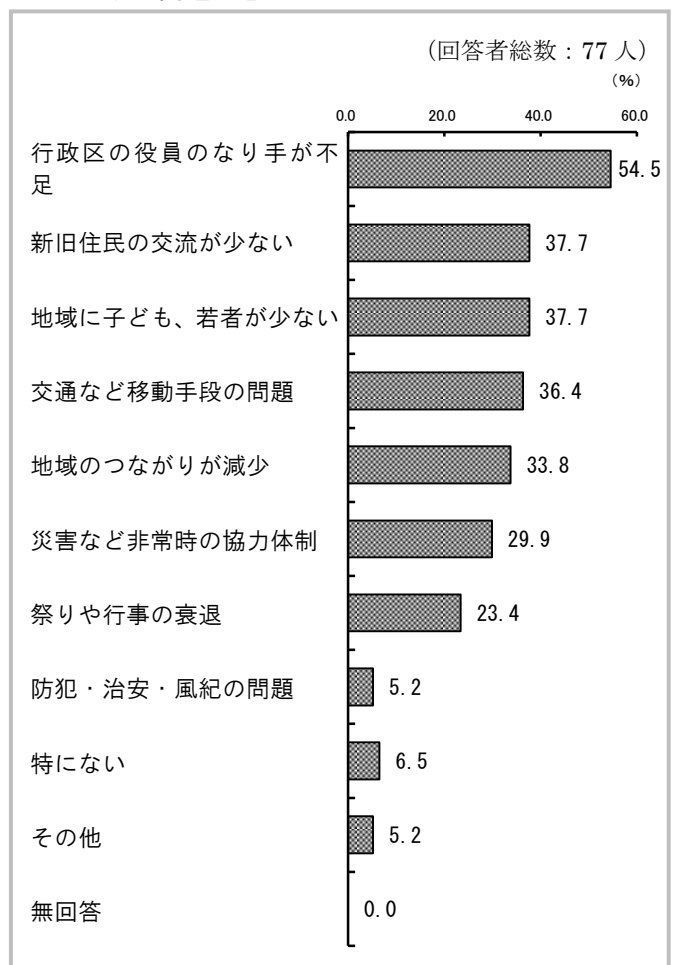
で最も多い

地域で気になること、問題と感ずることについては、「行政区の役員のなり手が不足」が54.5%で最も多く、次に「新旧住民の交流が少ない」と「地域に子ども、若者が少ない」が37.7%となっています。

表 地域で問題と感ずること 単位：人（%）

区 分	全体
回答者総数（人）	77
行政区の役員のなり手が不足	42 (54.5)
新旧住民の交流が少ない	29 (37.7)
地域に子ども、若者が少ない	29 (37.7)
交通など移動手段の問題	28 (36.4)
地域のつながりが減少	26 (33.8)
災害など非常時の協力体制	23 (29.9)
祭りや行事の衰退	18 (23.4)
防犯・治安・風紀の問題	4 (5.2)
特にない	5 (6.5)
その他	4 (5.2)
無回答	0 (0.0)

図 地域で問題と感ずること



(2) 活動を行う上で、困っていること

活動を行う上で、困っていることなどがありますか。[あてはまるものすべてに○]

「連携や協力がもっと必要」が42.9%で最も多い

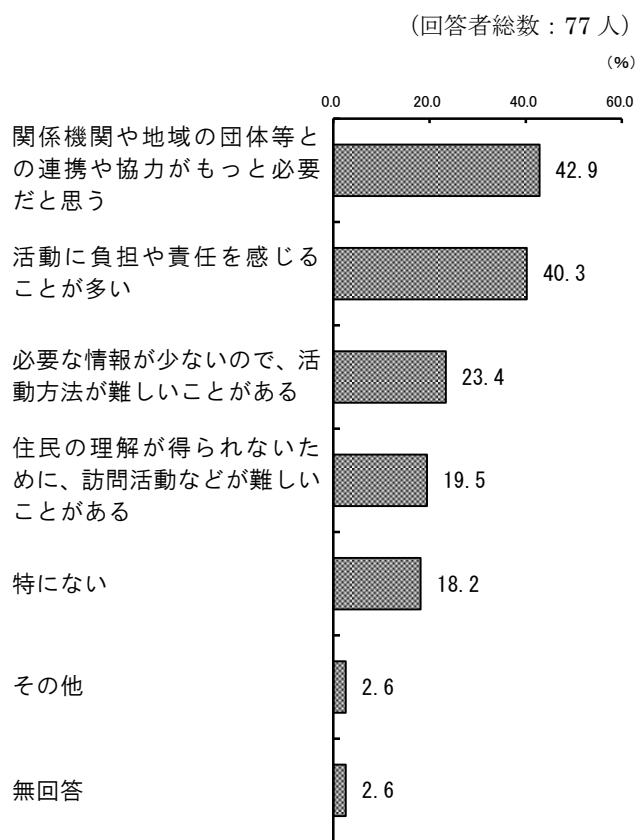
民生委員・児童委員活動を行う上で困っていることは、「関係機関や地域の団体等との連携や協力がもっと必要だと思う」が42.9%で最も多く、続いて「活動に負担や責任を感じることが多い」が40.3%、「必要な情報が少ないので、活動方法が難しいことがある」が23.4%となっています。

表 活動を行う上で、困っていること

単位：人（%）

区 分	全 体
回答者総数（人）	77
関係機関や地域の団体等との連携や協力がもっと必要だと思う	33 (42.9)
活動に負担や責任を感じるが多い	31 (40.3)
必要な情報が少ないので、活動方法が難しいことがある	18 (23.4)
住民の理解が得られないために、訪問活動などが難しいことがある	15 (19.5)
特にない	14 (18.2)
その他	2 (2.6)
無回答	2 (2.6)

図 活動を行う上で、困っていること



資料4 ボランティア団体アンケート調査結果（抜粋）

配布数：20 団体（市社協登録ボランティア団体等）

回答数：18 団体

出 典：白岡市

「白岡市地域福祉についてのアンケート調査報告書」より

（1）活動上の課題

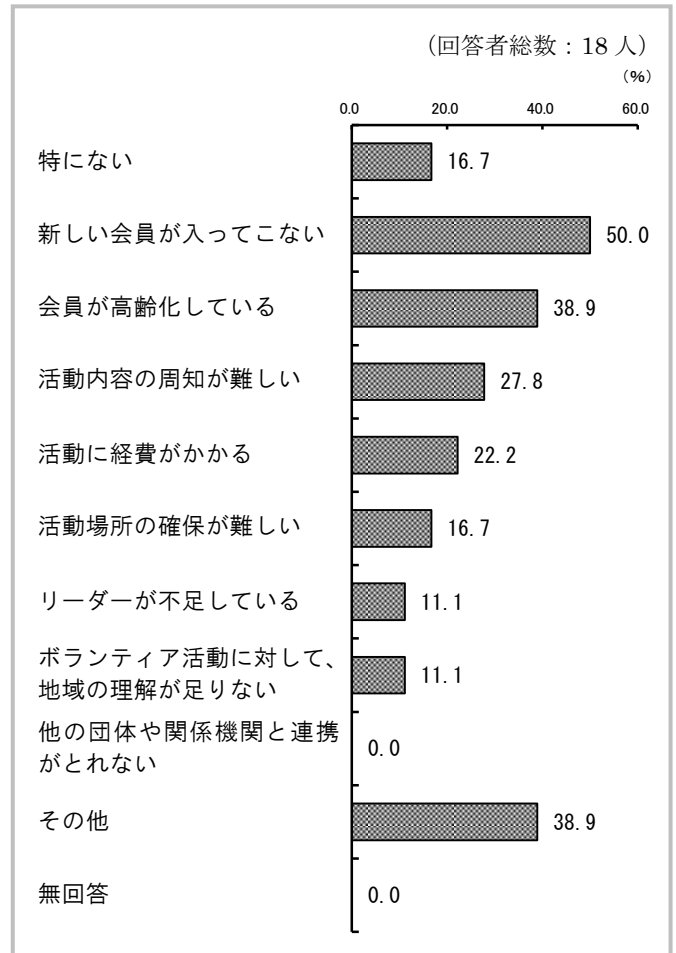
ボランティア活動上の課題や問題点がありますか。〔3つ以内で○〕

ボランティア活動上の課題や問題点については、「新しい会員が入ってこない」が50.0%で最も多く、続いて「会員が高齢化している」が38.9%、「活動内容の周知が難しい」が27.8%となっています。

表 活動上の課題 単位：人（%）

区 分	全体
回答者総数（人）	18
特にない	3 (16.7)
新しい会員が入ってこない	9 (50.0)
会員が高齢化している	7 (38.9)
活動内容の周知が難しい	5 (27.8)
活動に経費がかかる	4 (22.2)
活動場所の確保が難しい	3 (16.7)
リーダーが不足している	2 (11.1)
ボランティア活動に対して、地域の理解が足りない	2 (11.1)
他の団体や関係機関と連携がとれない	0 (0.0)
その他	7 (38.9)
無回答	0 (0.0)

図 活動上の課題



(2) ボランティア活動を活発化するために必要な取組

白岡市でボランティア活動を活発にしていくためには、どのような取組が特に必要だと思いますか。[3つ以内で○]

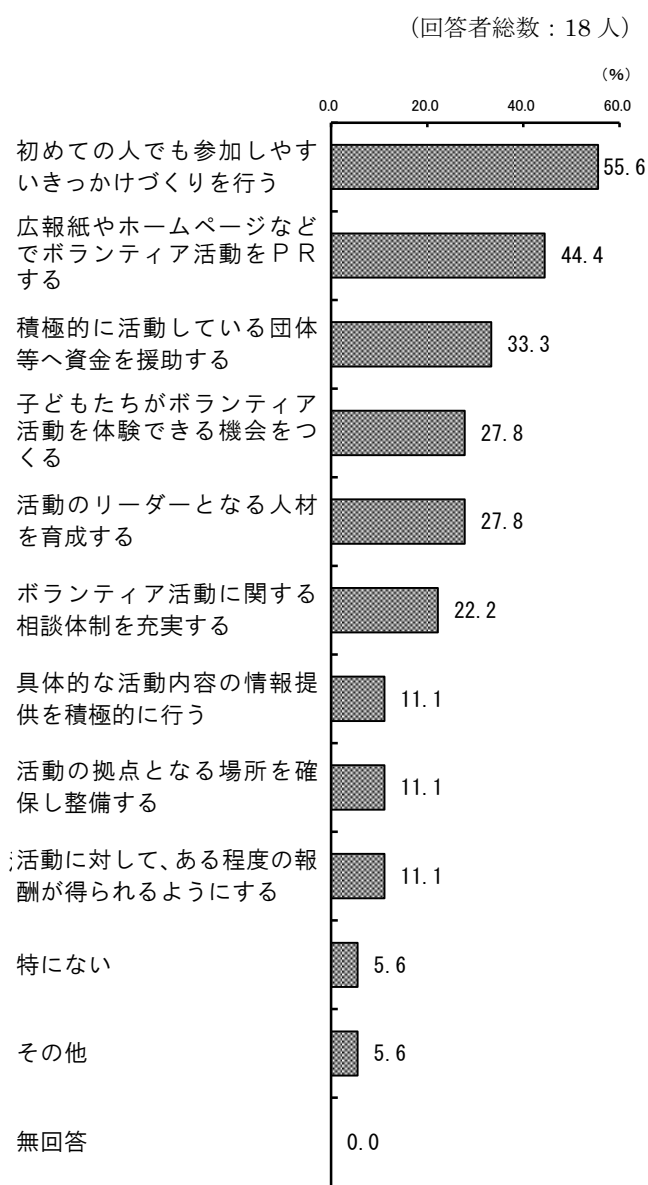
「きっかけづくり」が55.6%で最も多い

ボランティア活動を活発にしていくためには大切なことについては、「初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う」が55.6%で最も多く、続いて「広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする」が44.4%、「積極的に活動している団体等へ資金を援助する」が33.3%となっています。

表 ボランティア活動を活発化するために必要な取組
単位：人（%）

区 分	全体
回答者総数（人）	18
初めての人でも参加しやすいきっかけづくりを行う	10 (55.6)
広報紙やホームページなどでボランティア活動をPRする	8 (44.4)
積極的に活動している団体等へ資金を援助する	6 (33.3)
子どもたちがボランティア活動を体験できる機会をつくる	5 (27.8)
活動のリーダーとなる人材を育成する	5 (27.8)
ボランティア活動に関する相談体制を充実する	4 (22.2)
具体的な活動内容の情報提供を積極的に行う	2 (11.1)
活動の拠点となる場所を確保し整備する	2 (11.1)
活動に対して、ある程度の報酬が得られるようにする	2 (11.1)
特にない	1 (5.6)
その他	1 (5.6)
無回答	0 (0.0)

図 ボランティア活動を活発化するために必要な取組



資料5

市民、民生・児童委員、ボランティア団体、社会福祉法人を対象としたアンケートより（参考、引用し作成）

（１）地域での支え合いの評価

（よくやっている、どちらかといえばやっている、あまりやっていない、やっていない）

（２）地域福祉を推進していくために重要なこと

	地域での支え合いの評価 (やっていると思っている人の割合)	地域福祉を推進していくために重要なこと（第1位）
市民	よくやっている 4.0% どちらかといえばやっている 36.0%	支え合いの仕組みやきっかけづくり 33.8%
民生・児童委員	よくやっている 22.1% どちらかといえばやっている 48.1%	身近な地域におけるサロンなどの住民交流の場を充実する 40.3%
ボランティア団体	よくやっている 5.6% どちらかといえばやっている 50.0%	誰もが外出しやすい環境をつくる 44.4%
社会福祉法人	よくやっている 22.2% どちらかといえばやっている 44.4%	福祉人材の育成と確保を進める 55.6%

支え合いの評価を見ると、民生・児童委員やボランティア団体、社会福祉法人の回答では「よくやっている」と「どちらかといえばやっている」と思っている人の合計は50%を超えます。支え合いの制度やボランティア活動などを知っている人や担い手として活動している人は、自分たちが関わっているため、活動を知っていることが多いので「やっている」という評価が高くなったと推測できます。

それに対して、一般市民からすると、活動自体をまだ知らなかったり、もっとやってほしいという要望が伺え、担い手側よりも低い評価となったことが推測できます。双方の評価において、ギャップが生じていることがわかりました。

また、担い手となる人材については、地域活動の実践者から福祉職の人材にいたるまで不足している状況があります。

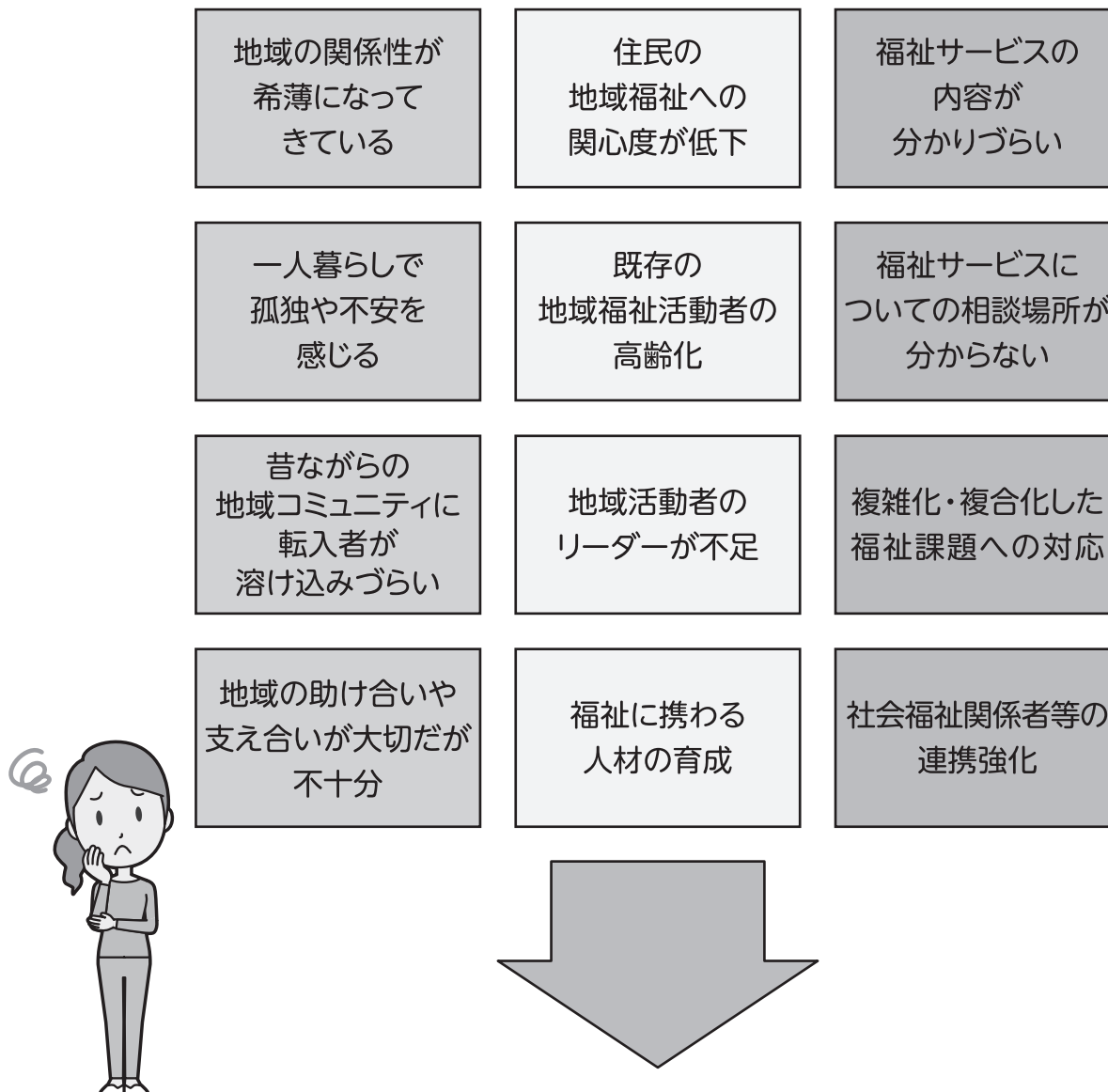
今後、地域福祉を推進していくために重要なことは

- ①制度の周知や活動に対するきっかけづくり
- ②福祉に携わる人材の確保と養成
- ③地域活動の拠点や外出しやすい環境の整備

などの取り組みが必要であることがわかりました。

6. 第2期計画の課題解決に向けた取り組みの方向性

【各種調査から見て取れる課題】

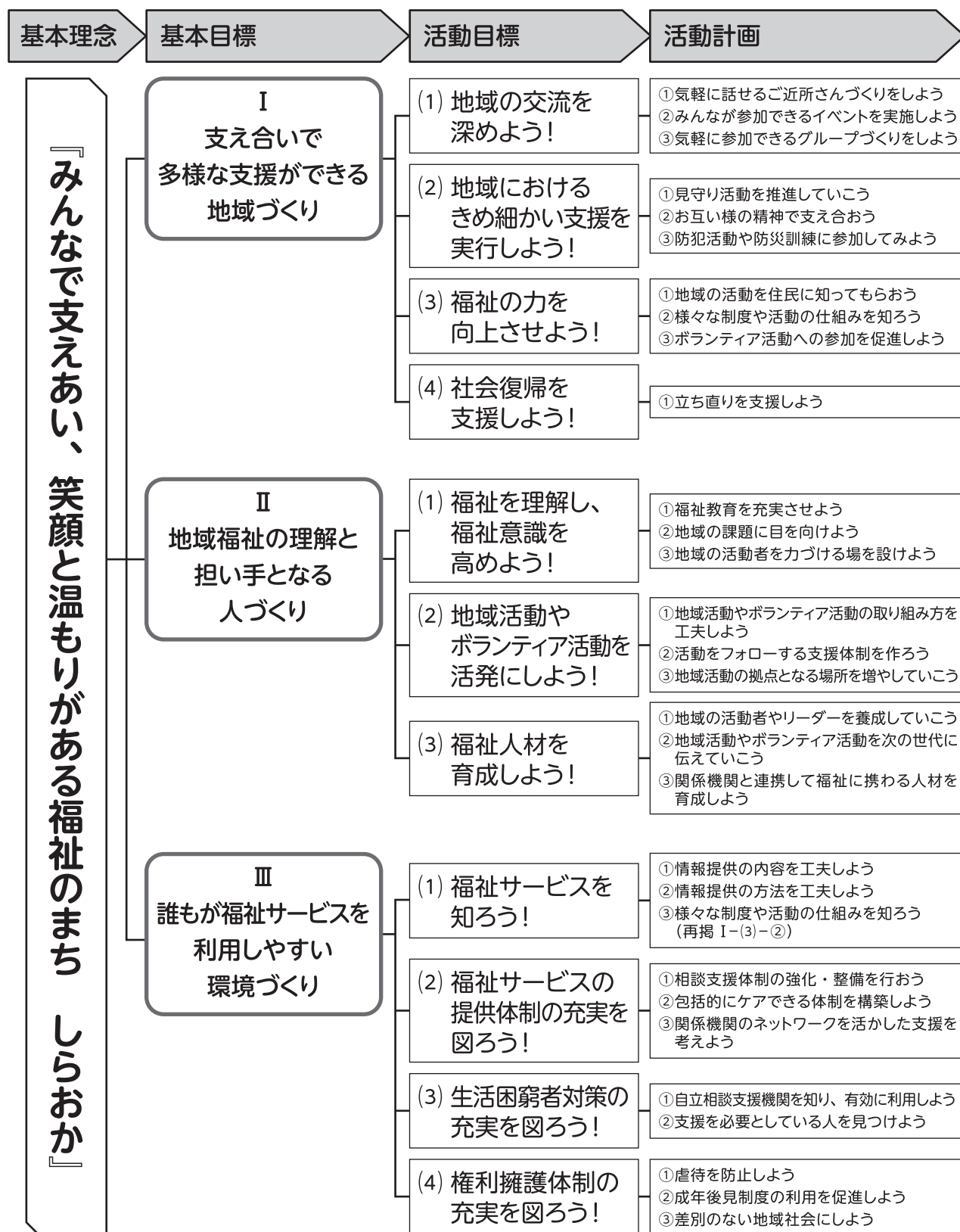


解決のための取り組み

I	II	III
支え合いで多様な支援ができる地域づくり	地域福祉の理解と担い手となる人づくり	誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり

第3章 本計画で目指す方向性と展望

1. 計画の体系



白岡市第2期地域福祉計画の基本目標及び
取組の基本方向と本計画とで共有する範囲

2. 基本理念

- ◆私たちが住む白岡市をどのような“まち”にしていきたいのかという将来にわたっての夢を「基本理念」とし、下記のとおりとします。

『みんなで支えあい、笑顔と温もりが
ある福祉のまち しらおか』

3. 基本目標

- ◆基本理念の実現に向け、必要な施策や取り組みの方向性を示すものを「基本目標」とし、下記のとおりとします。

I. 支え合いで多様な支援ができる地域づくり

◎地域コミュニティが希薄になり、孤立や孤独感に不安を感じる声が多くあります。空き家問題や災害などの緊急時の支援、犯罪への不安などがあり、住民が地域で安心して生活を送るための取り組みが必要です。

II. 地域福祉の理解と担い手となる人づくり

◎地域活動への期待が高まっていますが、反面、福祉に携わる人材の不足や活動者の高齢化などの課題が見受けられ、担い手の育成が求められています。協力者を増やしていくには、まず、地域福祉に対する理解者を地域に増やしていく必要があります。

III. 誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり

◎複雑化・複合化した福祉課題に対応するため、官民間わず数多くの福祉サービスが実施されています。それらのサービスを有効に利用し、住民一人ひとりが地域で自分らしく暮らしていけるような取り組みを行うことが必要です。また、介護、障がい、育児、生活困窮などが複合化した福祉課題を「丸ごと」受け止められる相談体制や横断的に対応する関係機関の連携の強化が必要です。

第4章 具体的な取り組み

1. 活動目標

- ◆基本目標の達成に向けた取り組み方針を「活動目標」とし、それぞれ下記のとおりとします。

基本目標Ⅰ．支え合いで多様な支援ができる地域づくり

活動目標（１）地域で交流を深めよう！

- ・住民同士の交流が以前に比べ希薄化しています。日頃から、ご近所でのあいさつややり取りを通して顔見知りの関係を築きましょう。また、地域のイベントには声を掛け合って積極的に参加していきましょう。

活動目標（２）地域におけるきめ細かい支援を実行しよう！

- ・地域には色々な福祉課題を抱えている世帯があります。住民一人ひとりがそのような困っている世帯や地域の問題に対して「我が事」としてとらえ見守りや助け合いを進めていける仕組みを作っていく必要があります。

活動目標（３）福祉の力を向上させよう！

- ・公的な福祉サービスだけでは対応しきれない福祉ニーズに対しては住民相互の交流を基盤とした支え合い活動の推進や地域づくりが求められます。また、地域福祉を推進している団体の活動を取り上げ住民に正しく伝わるよう周知することも必要です。

活動目標（４）社会復帰を支援しよう！

- ・近年、犯罪をした人が社会復帰をしていく過程において、社会的に孤立してしまい再犯をしてしまう方が少なくありません。また、そのような方には福祉的な支援が必要な方もいるため、孤立しないよう地域で見守りや声掛けなど気にかけて社会復帰を支援していく必要があります。

基本目標Ⅱ．地域福祉の理解と担い手となる人づくり

活動目標（１）福祉を理解し、福祉意識を高めよう！

- 地域の様々な福祉課題の解決には、住民一人ひとりが福祉に対する理解を深め、解決に向けて主体となって取り組む意識が求められます。

活動目標（２）地域活動やボランティア活動を活発にしよう！

- 地域福祉の担い手として活動しているボランティアは、近年、社会構造の変化や生活様式の変化によって減少しています。また、高齢化が進んで担い手不足により活動の存続の危機を迎えています。活性化していくためには、若い世代の参加のきっかけづくりやボランティア活動の意義を改めて広く周知していく必要があります。

活動目標（３）福祉人材を育成しよう！

- 市内の福祉施設の事業所などでは、職員の確保が困難な状況が慢性的になっています。人員が不足すると職員一人ひとりの負担が増え、疲弊して離職してしまうという連鎖が懸念されます。福祉人材の確保をしていくためには、子どもから大人に至る幅広い世代に地域福祉の理解と意識の醸成を図り、福祉従事者をはじめ、地域活動やボランティアで活躍できる人材を育成していく必要があります。

基本目標Ⅲ. 誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり

活動目標（１）福祉サービスを知ろう！

- 福祉課題に関する相談窓口は官民間問わず様々な機関に設置されていますが、どこに相談したらよいかわからないという声が聞かれます。また、民生委員・児童委員や社会福祉協議会のことを知らない人が多くおり、地域福祉に対する関心が低下しています。住民に必要な情報が届いていない可能性があり、福祉サービスに関する情報の周知方法を工夫して、関心を高める必要があります。

活動目標（２）福祉サービスの提供体制の充実を図ろう！

- 8050 問題やダブルケアなど福祉課題が複合化・複雑化した課題を抱える世帯が増加しています。そのような相談、問い合わせに対応できる総合相談窓口の設置や課題解決に向けての関連機関の横断的な連携や支援の充実が必要です。

活動目標（３）生活困窮者対策の充実を図ろう！

- 生活困窮者の自立支援に対しては、支援を必要とする人が適切な支援を受けられるよう、さらに充実していくことが求められます。

活動目標（４）権利擁護体制の充実を図ろう！

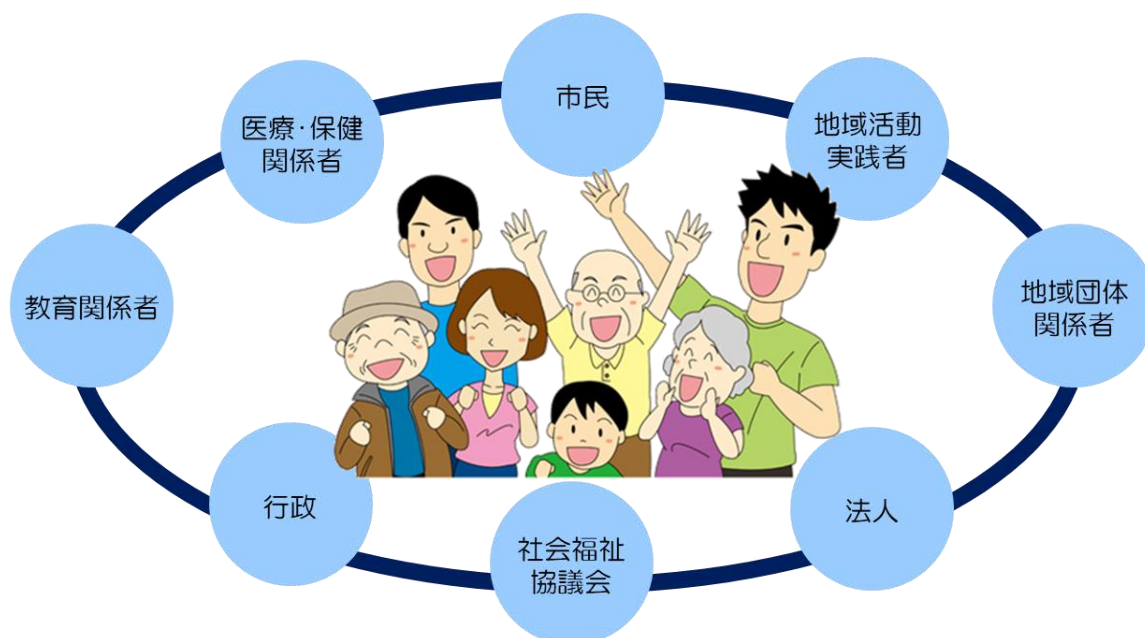
- 成年後見制度は、認知症や障がいなどによって、判断能力が低下しても地域で安心して生活し続けられるように支援をする制度です。今後、高齢化や核家族化により、制度を利用するかたの増加が考えられます。この制度を円滑に利用できるよう、権利擁護の総合的な支援の仕組みを構築する必要があります。

2. 活動計画

◆基本理念の達成に向けた具体的な取り組みを「活動計画」として示し、地域福祉の推進を図ります。

◆活動目標を達成するために、特に重点的に取り組む活動計画を「重点計画」と位置づけて取り組みます。

◆活動計画は、「地域（住民）」並びに「社会福祉関係者など」でそれぞれ実践していく取り組みを記載しており、行政が策定した「白岡市地域福祉計画」に記載された取り組みと連携して実施します。



基本目標Ⅰ．支え合いで多様な支援ができる地域づくり

活動目標（１）地域で交流を深めよう！

住民同士の交流が以前に比べ希薄化しています。日頃から、ご近所でのあいさつややり取りを通じて顔見知りの関係を築きましょう。また、地域のイベントには声を掛け合って積極的に参加していきましょう。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

①気軽に話せるご近所さんづくりをしよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ご近所の人とあいさつや世間話をしてみよう・子どもから高齢者まで世代を超えてあいさつなどができるように心がけよう・ご家庭や地域でもあいさつの大切さを子どもに教えていこう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none">・地域のイベントや会合などであいさつの大切さを伝えていこう （実施候補：行政区、民生児童委員、PTA、老人クラブなど）・ふれあい・いきいきサロンなどへの参加を促し顔見知りを増やしていこう （実施候補：社協、サロン団体、行政区、民生児童委員など）・若い世代や新住民と交流できるイベントや集会を企画しよう （実施候補：社協、行政区、サロン団体、老人クラブなど）

②みんなが参加できるイベントを実施しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ロコミを利用してご近所同士お互い誘い合って参加しよう ・バザーなどのイベントに参加しよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代が交流できるイベントやサロンを開催しよう （実施候補：社協、サロン団体、行政区など） ・参加する人が興味を示すようなイベント内容を考えよう （実施候補：社協、法人、など） ・SNSを活用して若い世代へ参加を呼びかけよう （実施候補：社協、法人、学校、PTA、育成会など） ・高齢者だけでなく、子育て世代も興味を持てる講座を企画しよう （実施候補：社協、法人、など）

③気軽に参加できるグループづくりをしよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに地域活動を行っている人やグループは、新しい人が気軽に参加できるようていねいに説明し、体験する仕組みを考えよう ・自分たちの活動を広く知ってもらえる効果的な仕組みを考えよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・お試し参加や見学を積極的に受け入れよう （実施候補：ボランティア団体、サロン団体、子育てサークルなど） ・ボランティア体験プログラムへの参加を呼びかけよう （実施候補：社協、ボランティア団体、学校など） ・広報紙やSNSなどを利用して地域活動や団体活動を紹介しよう （実施候補：社協、法人、ボランティア団体、サロン団体、老人クラブなど）

★白岡市第2期地域福祉計画での具体的取組（小項目）

- ①隣近所のお付き合いを大切にしよう
- ②地域の交流機会を充実しよう

基本目標Ⅰ．支え合いで多様な支援ができる地域づくり

活動目標（２）地域におけるきめ細かい支援を実行しよう！

地域には色々な福祉課題を抱えている世帯があります。住民一人ひとりがそのような困っている世帯や地域の問題に対して「我が事」としてとらえ見守りや助け合いを進めていける仕組みを作っていく必要があります。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

①見守り活動を推進していこう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ 気になることや心配ごとなどの報告があったら関係者につなげよう・ 郵便ポストが溜まっていたり、家の人をしばらく見かけないなどのちょっとした変化に気付くようにしよう・ 防犯パトロールや散歩などのときは、何気ない変化にも気を配り、日頃から地域の見守りを心がけよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ 関係機関と連携し、認知症、高齢者、障がいのある人など、支援が必要な人に対する地域での見守り活動を検討しよう （実施候補：社協、法人、行政区、民生児童委員など）・ 気づき・困りごとの相談ルートを明確にしよう （実施候補：社協、法人、行政区、民生児童委員など）・ 関係機関が積極的に情報交換・共有する努力をしよう （実施候補：社協、法人、行政区、民生児童委員など）

②お互い様の精神で支え合おう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にいる高齢者や障がい者、子育て家庭などに関心を持ち、日頃から声をかけ、できそうなことがあれば手助けしてみよう ・『お互いさま』の気持ちで気軽に手助けしたり、してもらったりできる地域にしよう。 ・困っている人がいたら地域で何ができるか考え、みんなで支援しよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・しらおか地域生活支え合いサービス事業を周知しよう （実施候補：社協など） ・支えあい事業の協力会員を増やそう （実施候補：社協など） ・地域共生社会の概念を住民にわかりやすく伝えていこう （実施候補：社協、法人など）

③防犯活動や防災訓練に参加してみよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が住んでいる地域にどのような防犯や防災の取り組みがあるのか知っておこう ・地域活動に積極的に参加して、自分の顔を覚えてもらったり、ご近所さんの顔を知っておこう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・親子、子育て世代への参加の呼びかけをしよう （実施候補：行政区、民生児童委員、老人クラブ、PTA、など） ・災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を実施しよう （実施候補：社協、ボランティア団体、など） ・非常食の体験や折り紙食器作り、防災カードゲームなど防災について学ぶ講座を実施しよう （実施候補：社協、など） ・施設の防犯や防災対策の取り組みを住民に知ってもらおう （実施候補：法人など）

★白岡市第2期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

- ①見守り活動を活発にしよう
- ②お互い様の気持ちで手助けしよう
- ③日頃から災害時の助け合いを考えよう

基本目標Ⅰ．支え合いで多様な支援ができる地域づくり

活動目標（３）福祉の力を向上させよう！

公的な福祉サービスだけでは対応しきれない福祉ニーズに対しては、住民相互の交流を基盤とした支え合い活動の推進や地域づくりが求められます。また、地域福祉を推進している団体の活動を取り上げ住民に正しく伝わるよう周知することも必要です。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

① 地域の活動を住民に知ってもらおう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	・地域の活動者などが自分たちの活動や事業を知ってもらうため、参加対象者などに直接声かけを行うなどていねいな情報の提供を心がけよう
社会福祉関係者などの取り組み	・行政区内の掲示板や回覧板で地元の情報を周知しよう （実施候補：行政区など） ・民生委員・児童委員の活動を紹介しよう （実施候補：民生児童委員、など） ・広報紙やホームページ、SNS等で支部社協やボランティア活動を紹介しよう （実施候補：社協など）

②様々な制度や活動の仕組みを知ろう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や周りの人が困る前に、地域の活動や福祉の仕組みを調べたり、講習会などに積極的に参加しよう ・行政区や自治会など多くの人が参加する機会に、講師を呼んで学ぶ機会をつくろう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座を積極的に利用しよう （実施候補：行政区、老人クラブ、サロン団体、ボランティア団体など） ・出前講座の講師を積極的に派遣しよう （実施候補：社協、法人など） ・他機関の制度や仕組みについて把握しよう （実施候補：社協、法人など） ・ホームページや SNS で最新の情報を提供できるようにしよう （実施候補：社協、法人など）

③ボランティア活動への参加を促進しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な経験や知識を持つ仕事を離れた方や地域のかかわりの薄い人に、地域活動への参加を呼びかけよう ・地域活動を知るための勉強や講習会などに積極的に参加しよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア体験プログラムの申込や周知方法を工夫しよう （実施候補：社協など） ・体験プログラム、ボランティアの受け入れ先を拡充しよう （実施候補：社協、法人、ボランティア団体など） ・ボランティア養成講座を実施しよう （実施候補：社協など） ・ボランティア団体がプレゼンできる場を作ろう （実施候補：社協、ボランティア団体など）

★白岡市第2期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

- ①民生委員・児童委員の活動を理解しよう
- ②支え合いの仕組みを強化しよう

基本目標Ⅰ．支え合いで多様な支援ができる地域づくり

活動目標（４）社会復帰を支援しよう！

近年、犯罪をした人が社会復帰をしていく過程において、社会的に孤立してしまい再犯をしてしまう方が少なくありません。また、そのような方には福祉的な支援が必要な方もいるため、孤立しないよう地域で見守りや声掛けなど気にかけて社会復帰を支援していく必要があります。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

①立ち直りを支援しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	・ 罪を犯した人等の生きづらさの背景を理解し、立ち直りをあたたく見守ろう ・ 保護司・更生保護女性会等の更生保護活動を応援しよう
社会福祉関係者などの取り組み	・ 保護司や更生保護女性会などに「しらおか生活相談センター」を周知し、生活支援、就労支援の相談が必要な人を連携して支援しよう (実施候補：社協、保護司会、更生保護女性会など)

★白岡市第２期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

- ①立ち直りを支援しよう
「白岡市再犯防止推進計画」

基本目標Ⅱ．地域福祉の理解と担い手となる人づくり

活動目標（１）福祉を理解し、福祉意識を高めよう！

地域の様々な福祉課題の解決には、住民一人ひとりが福祉に対する理解を深め、解決に向けて主体となって取り組む意識が求められます。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

①福祉教育を充実させよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・地域福祉に関する講習などに積極的に参加し、地域について自分の考えを持とう・学校で行っている福祉体験授業などについて、家族みんながよく話し合い、福祉のことを一緒に考えてみよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none">・福祉協力校で実施する福祉教育の内容を工夫しよう （実施候補：社協、学校、ボランティア団体など）・教職員や大人向けの福祉教育、福祉講座を実施しよう （実施候補：社協、学校、法人、ボランティア団体など）・子どもから高齢者まで福祉意識を学ぶ機会を提供しよう （実施候補：社協、法人など）・各種団体で実施する講座への参加を呼びかけよう （実施候補：社協、法人など）

②地域の課題に目を向けよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にどのような人が住んでいるのか関心を持とう。 ・高齢者や障がい者、子どもなど様々な人が地域で一緒に生活をしていることを意識しよう ・地域の身近な福祉課題に目を向け、自分たちにできることを話し合ってみよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職は積極的にアウトリーチを行おう （実施候補：社協、法人など） ・住民座談会などを開催して地域の福祉課題を住民と共有しよう （実施候補：社協、行政区、民生児童委員など） ・課題解決に向けてヒントになる情報や相談窓口を伝えていこう （実施候補：社協、法人など）

③地域の活動者を力づける場を設けよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・活動者の取り組みを地域全体でサポートしていける方法を考えよう ・地域福祉活動の取り組みを知り、活動を行っている人への理解を深めよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉大会を開催し功労者を表彰しよう （実施候補：社協など） ・活動者の抱える課題や悩みを共有し、解決にむけた足掛かりにできる場を作ろう （実施候補：社協、行政区、民生児童委員、ボランティア団体など） ・活動の様子を広報紙やホームページなどで周知しよう （実施候補：社協、老人クラブ、ボランティア団体など）

★白岡市第2期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

- ①福祉意識を高めよう
- ②福祉について学ぼう

基本目標Ⅱ．地域福祉の理解と担い手となる人づくり

活動目標（２）地域活動やボランティア活動を活発にしよう！

地域福祉の担い手として活動しているボランティアは、近年、社会構造の変化や生活様式の変化によって減少しています。

また、高齢化が進んで担い手不足により活動の存続の危機を迎えています。活性化していくためには、若い世代の参加のきっかけづくりやボランティア活動の意義を改めて広く周知していく必要があります。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

①地域活動やボランティア活動の取り組み方の工夫をしよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ 地域活動の場として公共施設や企業の施設などを有効に活用しよう・ お祭りなどのイベントで、自分たちが行う地域活動やボランティア活動について理解してもらう周知活動を行おう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ 他団体とコラボレーションをした事業を企画してみよう（実施候補：社協、ボランティア団体、サロン団体、老人クラブなど）・ ボランティア体験プログラムの新メニューを企画しよう（実施候補：社協、ボランティア団体、法人など）・ 市内の活用できる施設や制度について周知しよう（実施候補：社協、法人など）・ 参加者にどんな感想を持ったかアンケートをとり、今後の活動に活かしていこう（実施候補：社協、ボランティア団体、サロン団体など）・ 地域の中でどのようなボランティア活動が求められているのかを調査し、必要なボランティアを養成しよう（実施候補：社協など）

②活動をフォローする支援体制を作ろう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を行うにあたって利用できる制度や支援の方法を見つけよう ・利用した制度や支援をより良いものにできるよう、改善点を伝えよう ・自分が利用して助かった制度や支援をご近所さんや知人に伝えよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各種助成金の活用や周知方法を検討しよう （実施候補：社協、法人など） ・ボランティアセンターの機能を活性化しよう （実施候補：社協、ボランティア団体など） ・サロン立ち上げや運営方法などの支援を行おう （実施候補：社協など） ・ボランティアに対してフォローアップ講座を開催しよう （実施候補：社協など）

③地域活動の拠点となる場所を増やしていこう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設だけでなく、活動の拠点となる場所を見つけよう ・空き家や空き店舗、集会所などを有効活用しよう ・地域のイベント、交流会、サロンなどを地域の拠点で実施しよう ・誰もが気軽に通える雰囲気づくりや参加促進のためのアイデアを考えよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率が少ない部屋を地域活動の場として提供しよう （実施候補：法人など） ・空き家を利用したサロンなどを企画しよう （実施候補：サロン団体、行政区など） ・地域活動の拠点づくりを支援しよう （実施候補：社協など）

★白岡市第2期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

- ①地域活動を活発にしよう
- ②ボランティア活動を活発にしよう

基本目標Ⅱ．地域福祉の理解と担い手となる人づくり

活動目標（３）福祉人材を育成しよう！

市内の福祉施設の事業所などでは、職員の確保が困難な状況が慢性的になっています。人員が不足すると職員一人ひとりの負担が増え、疲弊して離職してしまうという連鎖が懸念されます。福祉人材の確保をしていくためには、子どもから大人に至る幅広い世代に地域福祉の理解と意識の醸成を図り、福祉従事者をはじめ、地域活動やボランティアで活躍できる人材を育成していく必要があります。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

① 地域の活動者やリーダーを養成していこう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ 誘い合って地域活動への参加者を増やしていこう・ 地域のリーダー後継者となりそうな方を地域活動に誘ってみよう・ 地域の活動者が自分たちの活動を住民に紹介する場をつくろう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ 地域デビュー講座やイベントを企画しよう （実施候補：社協など）・ リーダー養成講座を開催しよう （実施候補：社協など）・ これまで地域活動に参加していない人でも気軽に参加できる様な機会を作ろう （実施候補：行政区など）

②地域活動やボランティア活動を次の世代に伝えていこう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・定年退職した方や子育てが一段落した方などが、今まで培った知識と経験を福祉活動に発揮できるよう参加を促そう ・地域の伝統的な行事や高齢者の知恵や経験を若い世代に継承していこう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化や食文化を通じた催しを開催し、多世代の交流機会を作ろう （実施候補：社協、老人クラブ、行政区など） ・学生に募金運動への参加協力を促していこう （実施候補：社協、学校など） ・若い世代にも役割を持たせ、意見を尊重して活動をまかせてみよう （実施候補：行政区、民生児童委員、ボランティア団体など） ・子どもたちから福祉に触れられる機会をたくさん作ろう （実施候補：社協、法人、学校など）

③関係機関と連携して福祉に携わる人材を育成しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の仕事やボランティア活動に関心を持とう ・福祉の仕事やボランティア活動の内容を理解しよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験等の福祉教育の指導者を養成しよう （実施候補：社協など） ・実習生や職場体験、ボランティアを積極的に受け入れよう （実施候補：社協、法人など） ・ボランティア体験プログラムでワークキャンプを実施し、将来介護に携わる人材を育成しよう （実施候補：社協、法人など） ・ブランクがある人を対象に講座を開催しよう （実施候補：法人など）

★白岡市第2期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

- ①福祉の仕事をもっと知ろう
- ②関係機関と連携しよう

基本目標Ⅲ. 誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり

活動目標（１）福祉サービスを知ろう！

福祉課題に関する相談窓口は官民間問わず様々な機関に設置されていますが、どこに相談したらよいかわからないという声が聞かれます。また、民生委員・児童委員や社会福祉協議会のことを知らない人が多くおり、地域福祉に対する関心が低下しています。住民に必要な情報が届いていない可能性があり、福祉サービスに関する情報の周知方法を工夫して、関心を高める必要があります。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

①情報提供の内容を工夫しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	・どんな情報を求めているか、見やすくわかりやすい広報紙づくりなどについて、意見や要望を社会福祉関係者や行政などに伝えよう
社会福祉関係者などの取り組み	・関係機関や各種団体と協力をしてわかりやすい福祉ガイドを作成しよう （実施候補：社協、法人、ボランティア団体、老人クラブなど） ・広報紙やホームページを見やすいように工夫しよう （実施候補：社協、法人など） ・わかりやすい言葉づかいやイラストを使用し、誰でも理解できる内容にしよう （実施候補：社協、法人など）

②情報提供の方法を工夫しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動者やボランティアなどの協力を得て、情報提供を行い、役割や活動内容も広く知らせよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙や SNS などを活用し、世代別に適した媒体で情報を発信しよう （実施候補：社協、法人など） ・SNSを活用して、リアルタイムの情報を発信しよう （実施候補：社協、法人など） ・外国語、点字、音声での情報発信を検討しよう （実施候補：社協、ボランティアなど）

③様々な制度や活動の仕組みを知ろう（再掲Ⅰ-(3)-②）

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や周りの人が困る前に、地域の活動や福祉の仕組みを調べたり、講習会などに積極的に参加しよう ・行政区や自治会など多くの人が参加する機会に、講師を呼んで学ぶ機会をつくろう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座を積極的に利用しよう （実施候補：行政区、老人クラブ、サロン団体、ボランティア団体など） ・出前講座の講師を積極的に派遣しよう （実施候補：行政、社協、法人など） ・他機関の制度や仕組みについて把握しよう （実施候補：行政、社協、法人など） ・ホームページや SNS で最新の情報を提供できるようにしよう （実施候補：行政、社協、法人など）

★白岡市第2期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

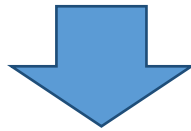
- ①福祉サービスに関する情報を収集・提供しよう
- ②困った時には相談しよう

基本目標Ⅲ. 誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり

活動目標（2）福祉サービスの提供体制の充実を図ろう！

8050問題やダブルケアなど福祉課題が複合化・複雑化した課題を抱える世帯が増加しています。そのような相談、問い合わせに対応できる総合相談窓口の設置や課題解決に向けての関連機関の横断的な連携や支援の充実が必要です。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

①相談支援体制の強化・整備を行おう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・福祉サービスの周知の方法は常に見直しをして、より良い方法を見つけよう・地域組織や地域の活動者を通じて必要な情報が必要な人に届く仕組みを作ろう・ご近所で福祉サービスの利用に困っている方がいたら、必要に応じて一緒に相談機関へ行くなどのお手伝いをしよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none">・どこに相談してよいか分からない人がいるため、総合相談窓口の設置を検討しよう （実施候補：社協、法人など）・様々な福祉分野に関する基礎的内容の研修等に参加し、幅広い知識を身につけよう （実施候補：社協、法人など）

②包括的にケアできる体制を構築しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントや会議の公募委員などに積極的に参加し、地域の声を届けよう ・地域活動やボランティア活動に参加しよう ・地域の困りごとを見つけたら社会福祉活動を行っている方や施設に相談しよう ・地域で出来る支援を考え、社会福祉関係者などと連携して地域を見守ろう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から関係性を構築するため、社会福祉関係者の定例会を開催し情報共有や課題解決に向けての支援方法などを話し合おう（実施候補：社協、法人など） ・福祉関係機関で包括的ケアが出来る体制を作ろう（実施候補：社協、法人など）

③関係機関のネットワークを活かした支援を考えよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていそうな方へ声をかけ、相談に乗ってみよう ・困りごとや気づきを地域の福祉活動者や関係機関窓口などにつなげよう ・福祉課題のある対象者にさりげない気遣いを見守りをしていこう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとの事例と相談機関がわかる情報誌の作成をしよう（実施候補：社協、法人など） ・複合化した課題の解決に向けては他機関、他職種と連携を強化しチームで支援しよう（実施候補：社協、法人、民生児童委員、ボランティア団体など）

★白岡市第２期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

- ①ニーズに対応したサービスを提供しよう
- ②複合的な課題にも対応できる体制を強化しよう

基本目標Ⅲ. 誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり

活動目標（3）生活困窮者対策の充実を図ろう！

生活困窮者の自立支援に対しては、支援を必要とする人が適切な支援を受けられるよう、さらに充実していくことが求められます。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

①自立相談支援機関を知り、有効に利用しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・地域の回覧板を活用して常時情報を提供しよう・支援を必要とする人に対する福祉サービスの利用を勧めよう・地域やご近所でも解決できない問題は、できるだけ早く専門の相談機関に相談しよう（相談機関には守秘義務があります）
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none">・住民にしらおか生活相談センターの役割を知ってもらおう（実施候補：社協、法人、民生児童委員、PTA など）・関係機関に「しらおか生活相談センター」の周知を図り、支援が必要な人を早期に見つけ、支援につながりやすいネットワークを作ろう（実施候補：社協、法人、民生児童委員、PTA など）

②支援を必要としている人を見つけよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none">・ご近所であいさつをすることで知らない人とも顔見知りになっていこう・気にかかる人がいたときは、声を掛け合うことができるようにしよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none">・職員によるアウトリーチを実践しよう（実施候補：社協、法人など）・対象者へ相談窓口を紹介しよう（実施候補：民生児童委員、PTA、行政区、など）

★白岡市第2期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

①生活困窮者の自立を支援しよう

基本目標Ⅲ. 誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり

活動目標（４）権利擁護体制の充実を図ろう！

成年後見制度は、認知症や障がいなどによって、判断能力が低下しても地域で安心して生活し続けられるように支援をする制度です。今後、高齢化や核家族化により、制度を利用するかたの増加が考えられます。この制度を円滑に利用できるよう、権利擁護の総合的な支援の仕組みを構築する必要があります。

目標を達成するために



活動計画《重点計画》

①虐待を防止しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	・虐待や人権侵害などが疑われる場合には、迷わず相談窓口にご相談・通報しよう
社会福祉関係者などの取り組み	・住民へ事例や相談窓口の情報を周知し虐待防止に関心を持ってもらおう （実施候補：法人、社協、民生児童委員、警察など） ・市の虐待防止ネットワーク会議で定期的に情報共有を行おう （実施候補：法人、社協、民生児童委員、警察など）

②成年後見制度の利用を促進しよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度や福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートねっと）などの内容を理解し、活用しよう。 ・判断能力が低下している人を見守り、気がかりな時には、関係機関へ相談しよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・制度周知のため講座を開催しよう （実施候補：社協、法人など） ・判断能力の不十分な人が地域で安心して生活していくために、権利擁護支援を中心とした相談支援体制を整備しよう （実施候補：社協、法人など） ・市民後見人を養成しよう （実施候補：社協、法人など） ・法人後見事業の推進を図ろう （実施候補：社協、法人など）

③差別のない地域社会にしよう

取り組み主体	取り組み内容
地域（住民）の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な差別問題があることを理解し、関心を持とう ・自身の言動を振り返り、差別をしないよう心がけよう
社会福祉関係者などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙などで身近にある差別問題を紹介し、話し合える機会を作ろう （実施候補：社協、法人など） ・職員研修を行おう （実施候補：社協、法人など）

★白岡市第２期地域福祉計画の具体的取組（小項目）

①虐待を防止しよう

②成年後見制度を利用しやすくしよう

「白岡市成年後見制度利用促進基本計画」

第5章 計画の推進に向けて

1. 計画の推進体制

(1) 計画の周知

○地域福祉を推進していくためには、自らが地域福祉の担い手であることを認識して、多くの住民が主体的に地域で助け合いや支えあいの活動に参加できるよう、本計画の目指す基本理念や地域福祉の取り組みについて理解を得ることが重要となってきます。そこで、市民や地域団体等に計画書や概要版を配布するとともに、社会福祉協議会や市の広報紙、ホームページなど様々な手法で本計画の周知を図っていきます。

(2) 計画の推進

○市民、地域活動実践者、地域福祉事業従事者、地域団体関係者、医療・保健関係者、教育関係者、行政、法人等と社会福祉協議会が連携し、推進していきます。

○同じく地域福祉の推進を図る目的で策定されている白岡市第2期地域福祉計画と整合性を図りながら、車の両輪のように連携し、地域福祉を推進します。

2. 計画の進行管理

○本計画の進行管理並びに事業達成状況等については、定期的に調査・把握を行い、「PDCAサイクル」により達成状況のチェックを行います。

○進行管理委員会等を設置し、年度ごとに取り組みの目標を設定して成果や課題等の評価を行います。

○地域福祉を取り巻く状況の変化や、国・県・市の制度改正などの動向を踏まえて、必要に応じて本計画の見直しを行います。

○本計画の期間満了時又は次期計画策定時には、広く市民からの意見を集め、本計画の評価を行います。

3. 計画の目標設定

○白岡市第2期地域福祉計画の目標設定を共有し推進していきます。

■ 「基本目標1 支え合いで多様な支援ができる地域づくり」に関するもの

指 標	現 状 (令和元年度)	目 標 (令和7年度)
地域行事の参加率 地域のお祭りやイベントに「よく参加する」と「たまに参加する」の割合の合計の増加	43.5%	増加 60%
地域の支え合いや助け合いの評価 白岡市における地域の支え合いや助け合いについて「よくやっている」と「どちらかといえばやっている」と感じている割合の合計の増加	40.0%	増加 50%
民生委員・児童委員の周知状況 民生委員・児童委員について、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」、「地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない」、「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」という割合の合計の増加	54.5%	増加 65%
白岡市社会福祉協議会の周知状況 白岡市社会福祉協議会の「活動も名前も知っている」という割合の増加	17.3%	増加 25%
「社会を明るくする運動」の周知状況 「社会を明るくする運動」について「名前も内容も知っている」という割合	—	増加 20%

■ 「基本目標2 地域福祉の理解と担い手となる人づくり」に関するもの

指 標	現 状 (令和元年度)	目 標 (令和7年度)
「地域福祉」という言葉の認知度 「地域福祉」という言葉を「よく知っていた」と「ある程度は知っていた」という割合の合計の増加	44.9%	増加 60%
地域のボランティアの参加率 地域や行政区の手伝い、ボランティア活動などに「よく参加している」と「参加している」の割合の合計の増加	10.6%	増加 30%

■ 「基本目標3 誰もが福祉サービスを利用しやすい環境づくり」に関するもの

指 標	現 状 (令和元年度)	目 標 (令和7年度)
民生委員・児童委員の周知状況（再掲） 民生委員・児童委員について、「地区の委員の名前や顔、活動も知っている」、「地区の委員の名前や顔は知っているが、活動は知らない」、「地区の委員の名前や顔は知らないが、活動は知っている」という割合の合計の増加	54.5%	増加 65%
白岡市社会福祉協議会の周知状況（再掲） 白岡市社会福祉協議会の「活動も名前も知っている」という割合の増加	17.3%	増加 25%
福祉に関する情報源の認知度 福祉に関する情報源が「わからない」という割合の減少	12.7%	減少 5%
「成年後見制度」の周知状況 「成年後見制度」について「名前も内容も知っている」という割合	—	増加 60%

資 料 編

用語解説

【あ行】

■アウトリーチ《44 ページ、他》

直訳すると、「外に手を伸ばす」ことを意味し、福祉分野では、「支援が必要であるにもかかわらず届いていない人に対し、行政や支援機関などが積極的に働きかけて情報・支援を届けるプロセス」のこと。

■SNS《37 ページ、他》

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称で、コミュニケーション目的のネットワークを提供するサービスおよびサイトのこと。例としてはツイッターやフェイスブック、ラインなど。

【か行】

■核家族《3 ページ、他》

夫婦のみ、夫婦と子ども、男親または女親と子どもで構成される世帯のこと。

■権利擁護《30 ページ、他》

福祉サービスの提供が「行政による措置」から「利用者の自由な選択による契約」に転換していく中で、認知症高齢者、知的障がい者等判断能力が不十分な福祉サービス利用者の意思決定を援助し、支援を行うこと。

■更生保護女性会《42 ページ》

地域社会の犯罪・非行の未然防止のための啓発活動を行うとともに、青少年の健全な育成を助け、犯罪をした人や非行のある少年の改善更生に協力することを目的とするボランティア団体。

■公的なサービス《1 ページ》

広く一般の人々の福利のために公的機関が提供するサービスのこと。この計画の中では特に福祉に関するサービスのこと。

■交流会《46 ページ》

地域で行っている住民同士の交流を図るための集まりのこと。食事会や勉強会など目的は様々である。

■コーディネート《10 ページ》

コーディネートとは、一般的にはうまく調整を図り全体をまとめるなどと訳されます。この計画では、地域に存在する施設や機関、団体間を統合的に調整し、問題解決に向けて円滑にことを進めるなど、社会福祉従事者にはコーディネーター（調整役）としての機能も求められている。

【さ行】

■市民後見人《55 ページ》

市町村などが実施する養成研修を受講し、成年後見に関する一定の知識・態度を身に付けた一般市民の中から、家庭裁判所により成年後見人等として選任された方のこと。

■社会福祉関係者《1 ページ、他》

この計画では民生委員や児童委員、社会福祉施設・社会福祉法人等の社会福祉に携わる関係者全般のこと。

■社会福祉法人《1 ページ、他》

社会福祉法人は、社会福祉法等に基づき、高齢者の介護、障がい児者への各種支援、児童の保育・虐待を受けている人へのケアなど、さまざまな福祉サービスを行うことを目的として設立された民間の非営利法人のこと。事業の開始・廃止には行政の認可が必要で、各官庁による監査・命令・情報開示など厳格な規定のもとで事業を実施していることが、他の法人や企業との違い。

■住民座談会《44 ページ》

住民が集まって、ある問題について各自の意見や感想を述べ合う会のこと。形式ばらないで話し合うことを目的とする。

■成年後見制度《34 ページ、他》

認知症などで判断能力が衰えてしまった方を、申立により家庭裁判所によって選任された後見人等が本人に代わって財産や権利を守り、本人を法的に支援する制度のこと。

■セーフティネット《11 ページ》

(Safety Net)「安全網」と訳され、網の目のように救済策を張ることで、全体に対して安全や安心を提供するための仕組みのこと。社会保障の一種。

【た行】

■地域（地域コミュニティ）《1 ページ、他》

ある一定の地域に属する人々のつながり、又はある一定の地域において自主性と自らの責任において、住みよい地域づくりを行う地域集団のこと。

■地域デビュー（講座）《47 ページ》

初めて地域活動やボランティア活動などに参加すること。講座では、そのために必要な知識や心得といった情報を取得したり、地域デビューに向けてのきっかけづくりを行う。

■出前講座《41 ページ、他》

社会福祉関係者が自身の施設等で行う講座ではなく、地域で行われる集会や団体の会議などにお伺いし、わかりやすく説明する講座のこと。

■ドメスティック・バイオレンス（DV）《3 ページ》

配偶者や恋人や婚約者等の親密なパートナーから振るわれる暴力をいい、身体的、精神的、性的及び経済的暴力の4つに分類される。

【な行】

■ネットワーク《52 ページ、他》

福祉業界でのネットワークとは、地域のさまざまな機関や団体、組織、個人などが相互に連携することにより新たなしくみを生み出し、課題解決に役立つ機能を発揮する状態のこと。また、そのようなことをめざした、社会的・組織的つながりのことを指す。

【は行】

■パブリックコメント《5 ページ、他》

公的機関が計画などを定める際に、広く市民意見を募集し、その結果を反映させることによって、よりよい行政を目指す手続き。

■PDCA サイクル《56 ページ》

Plan（計画）Do（実行）Check（評価）Action（改善）の4段階を繰り返すことによって、継続的な業務改善を図る手法。

■フォローアップ（講座）《10 ページ、他》

フォローアップとは、ある事柄を徹底させるために、あとあとまでよく面倒をみたり、追跡調査をしたりすることとされている。既に行ったことのある研修を再度確認またはより良くしていくための講座のこと。

■福祉《1 ページ、他》

「満ち足りた生活環境」「よりよく生きること」などの意味。「地域」福祉、「児童」福祉など〇〇福祉と使われることが多い。

■福祉体験授業《10 ページ、他》

白岡市社会福祉協議会が学校と協力して児童生徒に対して行っている福祉教育授業のひとつ。車いすや点字、手話などの体験を通じ、福祉について考えるための授業のこと。

■ふれあい・いきいきサロン（サロン）《9 ページ、他》

地域において外出機会のあまりない高齢者の方や障がいをもつ方、子育ての悩みを抱えたお母さん方など、誰もが参加でき、楽しくおしゃべりをしながら、仲間作りができるような空間のこと。

■プレゼン《41 ページ》

プレゼンテーションの略。情報伝達手段の一種。聴衆に情報を提示して、理解を得るようにするための手段。特に視覚情報が重視され、視覚情報伝達手段の一種と定義されている場合もある。

■法人後見《55 ページ》

社会福祉法人や社団法人、NPO などの法人が成年後見人、保佐人もしくは補助人になり、親族等が個人で成年後見人等に就任した場合と同様に、判断能力が不十分な人の保護・支援を行うこと。

■防犯パトロール《13 ページ、他》

地域における防犯意識を高め、街頭犯罪を未然に防止するために、住民組織により行われる自主的なパトロール活動のこと。

■保護司《42 ページ》

保護司法・更生保護法に基づき、法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員で、犯罪や非行に陥った人の更生を任務とする。身分は国家公務員であるが、俸給は支払われないためボランティアである。

■ボランティア《1 ページ、他》

よりよい社会づくりのために、自発的（自由意思）、無給性（無償性）、公益性（公共性）等に基づいて技術的な援助や労力の提供等を個人が自ら進んで行うこと。

■ボランティアセンター《10 ページ、他》

個人や団体を対象としたボランティア・市民活動に関する総合的な相談窓口。ボランティアのコーディネートや活動上の相談への対応などを行っている。また、広報紙やホームページなどによる情報提供、多様な課題に取り組むボランティア・市民活動についての調査・研究事業、団体に対して資金的な支援等を行っている。白岡市社会福祉協議会では、はびすしらか内に設置。

■ボランティア体験プログラム《37 ページ、他》

子どもから大人まで、だれもが気軽にボランティア活動に参加できるきっかけづくりのために、さまざまな体験メニューを用意して、市町村社会福祉協議会などが実施するプログラム。

■民生委員・児童委員《1 ページ、他》

民生委員は、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行うもので、都道府県知事の推薦を受けて厚生労働大臣から委嘱されている。また、児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごと等の相談・支援等を行う者のこと。なお、民生委員は、児童委員を兼ねており、また、一部の児童委員は児童に関することを専門的に担当する「主任児童委員」の指名を受けている。

■老人クラブ《9 ページ、他》

高齢者の福祉を図ることを目的とし、知識と経験を活かして生きがいと健康づくりのための活動を地域で行っている、概ね 60 歳以上の会員のクラブ。

■ワークキャンプ《48 ページ》

グループになって生活を送りながら様々な労働活動を行っていく合宿スタイルのボランティアのこと。

白岡市地域福祉活動計画の策定経過

1. 計画策定までの主な経緯

年月日		実施内容等
令和2年 8月11日	社会福祉協議会 理事会・評議員会	・令和3年度からの第2期地域福祉活動計画の策定について承認
10月26日	第1回策定委員会	・正副委員長の選任 ・地域福祉計画の概要、策定スケジュール等についての説明
11月9日	社会福祉協議会理事会	・計画策定委員会傍聴人要領の制定について報告 ・第1回策定委員会開催の報告
11月24日	社会福祉協議会評議員会	・計画策定委員会傍聴人要領の制定について報告 ・第1回策定委員会開催の報告
11月25日	社会福祉協議会内部検討会	・第1期計画評価及び第2期計画に向けての課題 ・第2期計画骨子案について
12月1日	第2回策定委員会	・第1期計画評価及び第2期計画に向けての課題についての協議 ・第2期計画骨子案についての協議 ・今後の策定スケジュールについての協議
令和3年 1月12日	社会福祉協議会内部検討会	・計画素案について ・パブリックコメントの実施について
1月19日	第3回策定委員会	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により緊急事態宣言が発出されたため、策定委員会の開催は中止し、委員へは文書にて計画素案に関する意見書を提出していただき修正を図ることで代替えとした。
2月1日	社会福祉協議会内部検討会	・計画素案に関する策定委員からの意見について ・パブリックコメントの実施について
2月3日 ～3月2日	パブリックコメントの実施	・市内公共施設窓口等、10か所に設置 ・社会福祉協議会ホームページ上で募集
3月5日	社会福祉協議会内部検討会	・パブリックコメントについて ・進行管理について ・地域福祉活動計画（案）について最終確認
3月9日	第4回策定委員会	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により緊急事態宣言が延長されたため、策定委員会の開催は書面会議として、委員へ地域福祉活動計画（案）の承認についての決議を行った。

※白岡市との協議・打ち合わせについては、必要に応じ、随時行いました。

2. 計画策定委員会設置要綱

白岡市社会福祉協議会「地域福祉活動計画」策定委員会設置要綱

平成26年10月 1日
白 社 協 要 綱 第 5 号

(設置)

第1条 白岡市における地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）を策定するため白岡市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 活動計画の策定に関すること。
- (2) その他、活動計画の策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、25人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから白岡市社会福祉協議会（以下「社協」という。）会長が委嘱する。

- (1) 地域福祉活動実践者
- (2) 地域福祉事業従事者
- (3) 地域団体関係者
- (4) 医療・保健関係者
- (5) 公募に応じた者
- (6) 学識経験者
- (7) 行政関係者
- (8) 教育関係者
- (9) 社会福祉法人関係者
- (10) 社会福祉協議会
- (11) その他会長が必要と認めた者

2 委員会には委員の互選により委員長1名、副委員長1名を置く。

3 委員長は会務を総理する。

4 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に規定する事務が終了するまでとする。

2 委員に欠員を生じたときの補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、会議の議長となる。

2 会議は、委員の過半数以上の出席がなければ、その会議を開き、議決することが

できない。

- 3 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

(作業部会)

第6条 委員会は、第2条の所掌事項に関する専門的事項等を調査・研究するため白岡市地域福祉活動計画作業部会（以下「部会」という。）を置くことができる。

- 2 部会員は、必要に応じ委員会で決定し、委員長が任命する。
- 3 部会には部会員の互選により部会長1名、副部会長1名を置く。
- 4 部会長は会務を総理する。
- 5 部会長に事故あるときは、副部会長がその職務を代理する。
- 6 部会の会議は、部会長が招集し、会議の議長となる。
- 7 会議は、委員の過半数以上の出席がなければ、その会議を開き、議決することができない。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、白岡市社会福祉協議会において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成26年10月1日から施行する。

3. 計画策定委員会傍聴人要領

白岡市地域福祉活動計画策定委員会傍聴人要領

令和2年10月1日

白社協要領第1号

(趣旨)

第1条 この要領は、白岡市社会福祉協議会「地域福祉活動計画」策定委員会設置要綱（平成26年10月1日白社協要綱第5号）第8条の規定に基づき、傍聴に関する必要な事項を定めるものとする。

(傍聴の手続)

第2条 白岡市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を傍聴しようとする者は、所定の場所で自己の住所、氏名を傍聴人カード（別紙様式第1号）に記入し、交付を受けなければならない。

2 傍聴人は、係員から要求を受けた時は傍聴人カードを提示しなければならない。

3 傍聴人は、傍聴を終えて退場しようとするときは、傍聴人カードを返還しなければならない。

(傍聴人の定員)

第3条 傍聴人の定員は10人とする。ただし、委員会の委員が特に必要と認めたときは、委員会に諮ってこれを変更することができる。

(傍聴することができない者)

第4条 次の各号のいずれかに該当する者は、委員会を傍聴することができない。

(1) 酒気を帯びていると認められる者

(2) 鈍器、凶器その他危険の恐れのある物品又は他人に迷惑を及ぼすおそれのある物品を携帯している者

(3) 前各号に定めるもののほか、議事を妨害し、又は迷惑を及ぼす恐れのある者

(4) その他委員会を妨害するおそれのある者

(傍聴席の指定)

第5条 傍聴人は、事務局が指定した傍聴席（以下「傍聴席」という）に着席しなければならない。

(傍聴人の守るべき事項)

第6条 傍聴人は、傍聴席において、次の事項を守らなければならない。

(1) 委員会に対して拍手その他の方法により、公然と可否を表明しないこと。

(2) 私語、談論、放歌、高笑をする等、騒ぎ立てないこと

(3) 鉢巻、襷、腕章の類をする等、示威的行為をしないこと。

(4) 飲食又は喫煙をしないこと。

(5) みだりに席を離れ、又は不体裁な行為をしないこと

(6) 前各号に定めるもののほか、会場の秩序を乱し、又は委員会の妨害となるよう

な行為をしないこと。

(撮影および録音等の禁止)

第7条 傍聴人は、傍聴席において撮影又は録音等をしてはならない。ただし、委員会に諮って許可を得た場合は、この限りでない。

(傍聴人の行為)

第8条 傍聴人は傍聴席において次の行為をするときは、事務局の指示を受けなければならない。

(1) 委員に文書、物品を差し出そうとするとき

(2) 委員に面会を求めようとするとき

(傍聴の制限)

第9条 協議内容について、委員会に諮りその過半数が必要と認めたときは、会議の一部及び全部を非公開とすることができる。非公開としたときは傍聴人は退場するものとする。

(傍聴人の退場)

第10条 傍聴人は公開しない委員会を開く議決があったときは、速やかに退場しなければならない。

(事務局の指示)

第11条 傍聴人はすべて事務局の指示に従わなければならない。

(違反に対する措置)

第12条 傍聴人が本規定に違反するときは、事務局はこれを制し、その命令に従わないときは、これを退場させることができる。

附 則

この要領は、令和2年10月1日から施行する。

様式第1号（第2条関係）

（表）

白岡市地域福祉活動計画策定委員会傍聴人カード	No. _____
令和 年 月 日	
住 所 _____	
氏 名 _____	

（裏）

<p>傍聴人の守るべき事項</p> <p>（1）委員会に対して拍手その他の方法により、公然と可否を表明しないこと。</p> <p>（2）私語、談論、放歌、高笑をする等、騒ぎ立てないこと</p> <p>（3）鉢巻、襷、腕章の類をする等、示威的行為をしないこと。</p> <p>（4）飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>（5）みだりに席を離れ、又は不体裁な行為をしないこと。</p> <p>（6）撮影又は録音等をしないこと。</p> <p>（7）前各号に定めるもののほか、会場の秩序を乱し、又は委員会の妨害となるような行為をしないこと。</p>

4. 計画策定委員会委員名簿

選出基準	氏 名	所 属	役 職
地域福祉活動 実践者	矢島 静江	白岡市民生委員・児童委員協議会	
	浅野 悦子	白岡市ボランティア連絡会	委員長
地域福祉事業 従事者	横溝 信恵	地域包括支援センターぽっかぽか	
	山路 久彦	埼玉葛北障害者生活支援センターたいよう	
地域団体関係者	佐々木 操	白岡市行政区長会	
医療・保健関係者	大瀧 明志	白岡市保健センター	
公募に応じた者	前島 雅史	公募	
学識経験者	中島 亜樹	埼玉県社会福祉協議会	
行政関係者	関根 勇介	白岡市健康福祉部福祉課	
教育関係者	森田 茂	白岡市 PTA 連絡協議会	
社会福祉法人	山崎 文博	特別養護老人ホームいなほの里	
社会福祉協議会	長島 一夫	白岡市社会福祉協議会篠津支部	副委員長



策定委員会の様子

白岡市第 2 期地域福祉活動計画

令和 3 年 3 月 発行

編集・発行

社会福祉法人 白岡市社会福祉協議会
埼玉県白岡市千駄野 445 番地

電 話 : 0480-92-1746

ホームページ : <https://www.shakyo.or.jp/hp/592/>

E-mail : siroaka-shakyou.01@juno.ocn.ne.jp

